



祇園祭と“温故創新”

梶 田 恵 理（春秋会）

私の今年の夏は、祇園祭で始まりました。

日本の有名なお祭りなどを訪ねる機会は今まであまりなかったので、祇園祭を訪れるのは、私にとって初めてでした。祭りでにぎわう京都で、私が感じた活気と風情を少しでもお届けできればと、筆をとりました。

『宵山』

7月16日金曜日の業務を終えると、逸る胸を押さえて新幹線に乗り込みました。旅行鞆には、買ったばかりの有松絞りの浴衣。この浴衣に袖を通すデビューは、祇園祭を置いて他に無し！と決めておりました。ちなみに、特に連れはおりません。祇園祭の後にはそのまま京都にて春秋会の旅行会に参加予定ではありましたが、祇園祭はふらりと一人旅です。

京都駅に降り立ったのは夜8時半。京都駅前のビジネスホテルにチェックインし、浴衣に着替え、フロントでもらった『祇園祭宵山マップ』を片手に宵山へと繰り出します。幸い、連日降り続いていた雨も止んでいます。

『宵山』とは、祇園祭の山鉦巡行のある日の前夜の、最も盛り上がる『祭りの夜』なのですか。ちなみに、15日夜、14日夜もお祭りはやっていて、『宵々山』『宵々々山』などと呼ばれています。しかし今年は宵々々山も宵々山も天候に恵まれなかったため、宵山は大変な人出でした。

宵山では、四条を中心に三条～五条あたりまで、山や鉦が飾られています。山や鉦にはそれぞれのご利益のあるお守りや、『粽』が売られています。ちなみにこの粽も、お守りのようなもので、食べられません。

最南端にある保昌山から回りたかったため、京都駅から歩いて行ったのですが、「地元の人でもない

のに歩いて行くの？自転車の後に乗せてってあげよか？」と地元の親切な兄ちゃんに声を掛けられてしまったほど、方向音痴オーラを振りまいていたようです。それでも、宿を出て約30分後には、無事に保昌山に到着。

それぞれの山や鉦は提灯で飾られ、コンチキチンのお囃子が聞こえてきます。人波に押されながら、保昌山のお守り（梅のマークがついて可愛いのです）と匂い袋を買ったり、妊娠中の同僚のために占出山で安産守りを買ったりしつつ、山鉦を眺めて回りました。提灯が華やかで美しいのですが、雨を警戒してビニールシートが掛けられていたこともあり、肝心の山や鉦の特徴は分かりにくく、どれを見ても同じに見えてしまいます。

夜の10時を回っても、まだまだ人の減る気配はありません。夜11時までは一部の通りを一方通行にしているくらいです。（車の一方通行ではなく、人間の一方通行ですよ！）各通りには、山鉦の間に出店が並び、道行く人はかき氷や焼き鳥を食べながらずさまじい人混みを歩いています。カオスです。私も夕食代わりに、美味しいたこ焼きとかちょっと微妙な味のフランクフルトとか吃驚するほどマズいかき氷とかを食べながら歩き回りました。浴衣を汚さなかったのが奇跡的な気がします。そんな人出の中で全ての山や鉦を回りきることはとてもできず、半分くらいしか見ていませんが、充分にお祭り気分を満喫しました。

夜11時に撤収する直前くらいに、比較的空いているのを見かけたので、函谷鉦に登りました。一部の鉦は、拝観料を払うと中に入らせてもらうことができるのです。そこでは、飾りのタペストリーなども展示されていて、じっくり眺めることができます。鉦の上から四条通を見下ろし、改めて人出の多さに

驚きながら、祭りの最後の風情に身を委ねました。競うように行き交う祇園囃子がにぎやかで、まさしく祭りのクライマックスを思わせます。宵山では、お囃子や粽の売り子さんたちの熱気もさることながら、祇園祭を愛してやまぬ京都の人々の活気がこの祭りを支えているのだと感じました。

帰りは電車で帰ろうと四条駅に向かうと、何ともう終電！間に合ったことに感謝しつつ、くたくたになって宿に戻ると、おろしたての下駄から覗く私の素足は、すっかり鼻緒のところの皮が剥けてしまっていました。

『山鉾巡行』

翌日は、観覧席のチケットを持って、京都市役所前にて山鉾巡行を見物しました。この日はまさしく梅雨明けで、容赦なく照りつける陽射しが夏の到来をこれでもかと思ひ知らせてくれます。

観覧席からゆっくり座って山鉾巡行を眺めていると、今度はまさしく祭りの『作り手』である側の、祭りへの情熱が感じ取れます。威勢良く大きな鉾を回す曳き方、曳き方を励ますようなお囃子や音頭取り。祇園囃子は、各山や鉾ごとにそれぞれ違うのだそうで、ひとつずつ聞いていくと確かにそれぞれの特徴が味わえます。威厳すら感じさせてゆっくりと巡る山鉾に、昨夜感じた京都の人々の祇園祭への愛は、これに応えるものであったかと納得させられました。

山鉾巡行を見てようやく、宵山ではサッパリ分からなかったそれぞれの山鉾の特徴的な美しさを堪能できました。山鉾はそれぞれ、中国の故事や日本神話、歴史上の人物などに由来するものが多いのですが、割と有名なお話に由来するものが多いので、不勉強な私でもパンフレット片手に楽しむことができました。例えば、宵山で登った『函谷鉾』は、清少納言が『よをこめて とりのおそねははかるとも』と詠った『函谷関』の故事に由来します。

また、この山鉾の四方を飾る『胴掛』『前掛』『見送』などと呼ばれる織物が美しいこと。重要文化財になっているものも沢山あるのですとか。驚いたのが、これらは、西陣織などでできているものもあります

が、ベルギーで中世に織られたタペストリーなど、西欧のものが多かったことです。『登竜門』の故事になぞらえて鯉が滝を登る姿をかたどった『鯉山』の胴掛にホメロスの『イーリアス』のワンシーンのタペストリーが飾ってあったり、山鉾の由来とタペストリーの絵柄は全く脈絡がないのですが、それでいて違和感がないのが不思議です。胴掛などは山鉾自体と比べて消耗が激しいので、新しいものに変えていく必要があるのですが、その時々で手に入る最高の物で、自分たちの誇る山鉾を飾り付けようとしたのでしょう。

また、山鉾を先導する旗を持つ『旗持ち』などに、外国の方と思しき方が案外多いのにも気付かされました。日本に長くお住まいの方かも知れませんが、留学などで一時的に滞在される方にとっても、日本での貴重な体験として心に刻まれることでしょう。そして、祇園祭としても、異国のタペストリーで山を飾ったように、異なる血を喜んで受け入れて共に祭りを盛り上げていくことで、さらに進化していくのではないかと感じられました。

今回巡った山鉾の他に、新しく山鉾としての参加を目指している鉾もあるのだそうです。そのひとつとして紹介されていたのが、『平成女鉾』。櫛稲田姫命（クシイナダヒメノミコト）をご神体とし、女性だけの囃子方を持っているのが特徴とのこと。山鉾巡行の先頭を切る『長刀鉾』などは女人禁制の鉾ですが、男子禁制の鉾ということでしょうか。女性だけの囃子方の鉾が巡行するのも、見てみたいと思います。

伝統文化を継承しつつ、歴史を切り拓く。その志を、平成女鉾を支える方々は、『温故創新』と名付けていました。すなわち、故きを温ねて新しきを創る。これまでの積み重ねを大切にしながら学びつつ、さらに新しい工夫を重ねていく。『今』を生きる人々の情熱が歴史を支えていくのだから、今までの『財産』を享受するばかりでなく、進歩していく努力を怠ってはいけないのだと、京都の伝統文化に教えられた、祇園祭だったのです。

バドミントン

中 谷 陽 子 (春秋会)

■テーマ選び

会報の原稿作成にあたり、数ページもどんなことがお話できるか悩みました。悩んだ結果、わたしがこれまで一番長く関わったバドミントンについてなら、少しはお話できると思い、テーマにしました。

わたしは、中学校のときにバドミントン部に入部して以来、今でもバドミントンを続けています。バドミントンは、公園や屋外で、気軽に楽しめるスポーツですが、競技バドミントンとなると全く違うスポーツになります。ここでは、競技バドミントンについて、あくまでも個人的な経験に基づいて、お話しさせてもらいたいと思います。

■技術力、持久力、瞬発力が必要といわれています。

バドミントンを初めて教わったとき、ラケットのグリップの握り方が、自分が思っていた握りと90度違うことに驚きました。どうやってシャトルが打てるのか疑問すら思いました。

バドミントンは、軽いシャトルを瞬間的にとらえるため手首のスナップを使ってラケットを高速に振る必要があります。はえたたきのようなイメージです。そこで、手首の可動範囲が最も広くなるよう、握手するかのような位置でグリップを握ります（いわゆるイースタングリップです）。

最初はとても違和感がありますが、慣れると、シャトルが気持ちいいくらい飛ぶようになります。技術力が必要といわれるのも、このあたりからきているのかもしれませんが。また、シャトルは、前後、左右、上下に、高速で飛んできます。わたしはスポーツの中でこれほど高速にあらゆる方向に動くスポーツはないのではないかと考えています。そのため、予想



以上に全身と神経を使い、持久力、瞬発力がとても重要になります。

■打球の種類はいろいろあります。

バドミントンのシャトルは、先端のコルクに、数枚の羽がついています。そのため、シャトルの軌道は、はじめはボールと同じように高く遠くに弧を描きますが、山を越えると、急に減速して、角度をつけて落ちるような弧になります。このようなシャトルの特徴を生かし、いろいろな種類の打ち分けができます。

またシャトルは、消耗品で、一試合に3～5回程度交換することもあります。消耗してくると、ボールのような弧を描き角度を付けて落ちにくくなったり、回転したり揺れたりします。ちなみに、羽は本物の鳥の羽です。鳥インフルエンザの影響でシャトルが高騰したこともあります。

＜種類＞

- ・ハイクリア；より高く、より遠くにシャトルを飛ばします。最も基本的な打球です。力だけではシャトルはうまく飛びません。どんな力持ちでも、技術者でも、コートの手前から端まで飛ばすのはなかなか困難です。
- ・ドロップ；ハイクリアと同じようなフォームで打ちますが、シャトルの軌道の特徴を生かして、相手コートの手前に角度をつけて落とします。野球でいうフォークボールのようなイメージです。
- ・スマッシュ／プッシュ；角度をつけて高速でシャトルを打ちます。初速度は、時速300kmを超えるともいわれるショットです。バドミントンの醍醐味の一つです。
- ・ドライブ；ネットの高さすれすれの高さで、シャトルを打ちます。

トルをほぼ平行に高速に打ち合います。スピード感が楽しいショットです。

- ・ペアピン；ネットすれすれの高さかつネット近くで、シャトルがペアピンを描くような軌道で打ち合います。力加減がとて難しいショットです。プレー中に活用できるととても強みになります。

■バドミントンにもサーブがあります。

バドミントンにもサーブがあることを知らない方も多いようです。バレーボールや卓球のようにサーブがあります。ですが、非常に地味です。



高速のサーブやジャンピングサーブはありません。ラケットを高く振り上げることはなく、いかにネットすれすれの高さで飛距離をださずサーブラインぎりぎりの位置にシャトルを落とすか、ウエストよりも低い位置から、微妙な力加減でシャトルを打ちます。

少しでもネットより高い位置で浮き上がるサーブを打ってしまえば、相手にプッシュされて一瞬で勝負が決まってしまう。また、至近距離から数十キロの速度で打ち込まれるシャトルはとても恐怖です。



一方、サーブレシーブの時は、立場が逆転します。甘いサーブをプッシュしてポイントをとったときは爽快です！でも、厳しいサーブに対しては、つい打ち上げてしまうので、コースや高さが甘いと、逆にスマッシュを打たれてしまいます。

■ダブルスに熱中。

バドミントンにも、シングルスとダブルスがあります。気軽に楽しむ場合は、シングルスで順番に打つのが楽しいですが、競技バドミントンの場合のシングルスを気軽にすることはお勧めできません。体

力、筋力、気力を使い果たします。スマッシュを打っても、コースが甘くて簡単にレシーブされてしまえば、自分で拾わなければならないし、スマッシュで体力を使わずにラリーを続けて相手の失投を待っていると、こちらの体力も奪われてしまいます。20歳を過ぎてからは、できればやりたくないです。

一方、ダブルスは、協力体制ですので、思いのまま楽しめます。わたしの場合、楽しんでしまいます。スマッシュを思いっきり打って、相手に返されてしまっても、たいてい仲間が助けてくれます。シングルスよりも、スピード感のあるプレーになります！

また、バドミントンのダブルスは、サーブレシーブ以外は、どちらが、どの場所から打っても構いません。二人のフォーメーションは、一般に、攻撃の時は前後、守りの時は左右になります。ですので、スマッシュを打ったら前後、打ち上げてしまったら左右、というように、自分たちの一打一打によって、絶えず動いていきます。コンビの相性によって、初級者が中級者に勝てる場合もあり、バドミントンの面白さの一つだと思います。また、先ほどお話ししましたが、技術力が必要となりますので、技術を習熟された年配の方が、若者に勝てたり、女性が男性に勝てることもあります♪

■最後に。

バドミントンは、最近、少しずつ人気が出てきているようですが、まだまだ知られていないところもたくさんあるとおもいます。わたしは、バドミントンの経験者とプレーすることももちろん楽しいですが、初めてバドミントンをするような方とプレーすることも好きです。バドミントンをしたことがない方に、少しでもバドミントンの楽しさを知ってもらえることが、自分の喜びでもあるからです。



山田特許事務所 宇都宮に開設

山 田 毅 彦（春秋会）

おことわり

本稿は、今年2月に発刊された弁理士春秋会会報第77号の「春秋界限」に掲載されたものを日弁会報向けに改定したものです。春秋会会員の方でもお忙しい中かいつまんで読んで頂けるよう、春秋会会員以外の方でも経緯が分かるよう手続補正書の如く補正部分には下線を引き、時間的な奥行きが感じられるようにするという初の試みを行ってみました。

恩師との別れ

富士重工（宇都宮製作所）を退職し、無資格・未経験の状態でH14年4月に東京国際特許事務所に入所してから7年9月が経ちました。この間、所長である波多野久先生の指導をうけつつH16弁理士試験に合格し、H17に春秋会会員となりました。春秋会入会後はH18橋本幹事会、H20鷺幹事会、H21岩永幹事会で幹事として、H19広報委員会では会報73号編集長として、そしてH22年度には日弁幽霊幹事として、春秋会はもちろん日弁という組織を満喫した日々でした。

特に、H20年度には知る人ぞ知る日弁首脳に激震を与えた波多野所長の唯一の部下兼側近として会派内で微力ながら貢献できた一方、日弁会員の一人として電話攻勢など選挙活動にも加わり日弁候補であった筒井大和会長の当選にも一役を担えたことはなかなか得ることのできない貴重な経験でした。今でも走馬灯のように当時の記憶が懐かしく蘇ってきます。

また、会派を通じて研修所や国際活動センターを始めとする複数の委員会等に所属し、特に国際活動センターではPA会の柳田センター長や一色健輔先生に、公私に亘り様々な相談に気兼ねなく乗って頂けました。今では、日弁会員に支えられているとい

うことをひしひしと実感しています。

そして、このような貴重な経験を積みながら本業でも一步一步成長できたのは波多野先生の人柄に依るものであると感謝しつつも諸々の事情により、いつでも復職可能な状態でH21年12月末をもって円満退職しました。



東京国際特許事務所では新人指導が受けられ、かつ所員の自主性が尊重されますので自己のペースでキャリア形成が可能です。特に、波多野先生は自らが第一線弁理士として実務をこなしつつ、所員には時間を惜しむことなく懇切丁寧に指導してくれます。

しかも、自己研鑽についてバックアップがあり、訴訟代理試験にも合格できました。一方で30名程度の所帯ですから所員ごとの生活面への配慮がなされ、波多野先生には退職後の仕事上の心配までしていただいております。

実際、退職後も手続面などで協力を得ることができました。

波多野先生は、これからというときに体調を崩されましたが、今では対外的な活動を控えられ、また複数の重圧からも解放され、健康も回復し、本来業務に専念することができるようになったとこっそり

会った元同僚の事務職員から聞いています。

宇都宮で独立

恵まれた環境から飛び出し、家族が暮らすマイホームタウンである栃木県宇都宮市で山田特許事務所を開設しました。自分にとっては人生最大のギャンブルですから事前に神頼みも行っており、写真は真岡市大前神社にある日本最大の恵比寿像に2人の子供&家内と商売繁盛を祈願しに行った時のものです。

そして、「この不況の時期に独立するとは信じられない」などというコメントを受ける中、独立後最初の3カ月間でなんとか数年は事務所を維持できそうだという見通しが得られました。写真は、有頂天の中、真岡市大前神社にある日本最大の恵比寿像に2人の子供&家内と商売繁盛のお礼参りに行ったときのものです。



経営の厳しさを今後痛感することになると思いますが、思ってはいましたが、この記事を書いている9月現在は、状況がまた変わり、予想以上の厳しさ（仕事量の少なさ）を痛感しています。春秋会を通じて栃木委員を引き受けていた関係で県内での発明相談員の依頼があります、多少は救われることを期待しています。また、その春秋会会報第77号の記事を書いている最中にも大阪にある退職前のクライアン

トの社長から激励の電話を頂けたことを思い出しました。

加えて、筒井会長にも様々な由縁から私のことを覚えていただいております、委員会活動などで顔を合わせる度に、励ましの言葉を頂いております。

更には、春秋会の複数の経営弁理士の方からも本当に困ったら仕事を廻して頂けそうな助言や事務所合併の助言も頂いております。この誌上を借りて深く御礼申し上げます。

会派活動や委員会活動はボランティアですが、ボランティア精神のお陰でこのような無形の財産が得られ、働いた甲斐があったと思います。

多くの人々に支えられていると感謝しておりますので読者の先生も機会がありましたら生類憐みのボランティア精神で是非、

山田特許事務所

Tel:028-655-5169 / Fax:028-902-1012

E-mail:yamadapat@adagio.ocn.ne.jp

URL:<http://www6.ocn.ne.jp/~yamadat/>

を企業の方に紹介して下さい。有機化学を除く（特に電気・機械）国内外特許が専門得意分野です（独立後外国特許の経験あり）。地域の中小企業をサポートすべく商標や意匠など幅広く手掛けることにしました。

ただし、予告なく事務所をたたむ場合もございますので予めご了承下さい。

実際、クライアントからの仕事を多少なりとも引き受けると、最後まで責任を持ってやらねば、という状況になります。また、複数の外国事務所にも独立の挨拶をして“Congratulations！”のエールを頂きました。そして、この記事。

ここまでくると、もう引き下がる訳にはいきません。引き受けた仕事は責任を持って最後まで対応致します。

独立後約8カ月を振り返って思うのは、一喜一憂の激動の連続で、しかもその振れ幅が会社員だった頃には経験したことがない程大きいということです。また、様々な問題を乗り越える度に新しい知識や能力が身についていくのが非常に良く実感できます。

ですから、今現在、退職元の東京国際特許事務所

での恵まれていた面に気付かされてはいますが、自分にとっては独立が非常にプラスになっていると思っています。5年後、10年後、20年後・・・に振り返ったときにきっと独立して良かったと言う日が来ると思います。

また、組織は別個になってしまいましたが、波多野先生の理念は引き継いでいると自負しています。つまり、ハード面では後継者になっていませんがソフト面では後継者になっているのではないかと個人的には考えています。

日弁活動

さて、日弁活動は？というくしくも参加できなかった旅行会その他、1回だけ出席した幹事会などがあります。

My Firmは前述の通り独立直後であり、なかなか余裕もありませんので、岩永日弁副幹事長(春秋会)には苦勞をかけますが、お互いまだ30代だし将来余裕ができたならまた協力するということでご容赦願うことに自主的に決定しました。

宇都宮の紹介

最後に余った紙面を埋めるために簡単に宇都宮の紹介をしておきます。

宇都宮と言えば餃子が有名ですがカクテルの街でもあり、お洒落なバーが数多くあります。

また、大谷地区では大谷石と呼ばれる石が採取され、市内には石造りの建築物が至る所にあります。写真は、第二次世界大戦後の平和を祈念して作成された平和観音像（通称：大谷観音）です。



宇都宮にお越しの際は、宇都宮駅東口前でクレーンから落として壊した餃子像（修復済）を見るだけでなく、ちょっと足を延ばしていろんな見所を廻ってみて下さい。

ただ、実を言うと、大谷観音は私自身10年位前（家内と出会う前）に一度見ただけです。そのうち家族と観に行ってみたいと思っています。

一方、7月の委員会後には、宇都宮駅東口餃子像付近の餃子専門店「みんな」でPA会のベテランひょうきん弁理士の工藤宣幸 先生に餃子ごちになりました（事業に成功したら倍返しとの約束で）。ご馳走様でした。私にとっては心に沁み入る支援でした。やっぱり、餃子食べるだけでも価値あり？です。工藤先生の事務所に餃子像と等身大の餃子を一日も早く送れる日が来るように精進して行きたいと思います。

この他、当所から近い宇都宮近隣の壬生町、下野市、真岡市などでは、商標や農林関係が専門の弁理士には有名な「とちおとめ」ブランドの苺や干瓢、木綿が地場の産物です。また、天皇家御用達の大田原牛を始めとする栃木和牛や豊かな自然で育った新鮮な野菜など、食べ物も美味しいです。

子供たちの留学

服 部 博 信 (春秋会)

私は現在、勤務先の日本の特許事務所のサポートの下、約2年間の予定でアメリカに留学しています。正確に言うと「私たち」です。私には2人の子供がおり、子供たちもまた、アメリカの小学校に「留学」しています。留学から1年を過ぎた今、これまでの1年間を「子供の留学」を通して振り返ってみたいと思います。

入学準備

留学当初、上の息子は小学校2年生、下の娘は幼稚園の年長でした。アメリカ行きを打ち明けたのは留学より3ヶ月前の4月ごろ。2人の反応は意外にも「やったー」という感じでした。2人とも好奇心旺盛なのか、遊びに行くだけと思っているのか、それとも何もわかっていないのか。とにかく、上の息子には英語の先生をつけて少しでも英語に慣れてもらうことにしました。

アメリカに引っ越したのは2009年8月。もちろん最初は英語がわからず、公園に行っても同世代の子供と会話できません。しかし、ここからが子供のすごいところ。会話できなくても数分経つと仲良く遊んでいるのです。大人にはできない芸当です。

子供の留学先である米国シアトルの公立小学校は、外国人のための英語教育が充実しています。英語が母国語ではない生徒は、まず英語の試験を受けます。試験の結果に基づいて、英語だけを勉強するクラスに通うのか（BOCと呼んでいました）、通常クラスに通いつつ英語の補講を受けるのか、補講がいらないのかを判断します。結局息子はBOCに、BOCがない幼稚園に通う娘は、補講を受けながら通常クラスに通うことになりました。息子が通うBOCは家の目の前のJohn Stanford International School（JSIS）という学校にあったのですが、娘はJSISの幼稚園が

いっぱいのため、別の学校（B.F.Day School）に通うことになりました。



JSIS小学校 BOCクラス



B.F.Day School

アメリカは書類の国。何でもかんでも書類を書かれます。願書、予防接種、緊急連絡先、免責事項などなど。ざっと50ページ／1人ぐらい。書類を書くにはこの倍のページの説明書を読む必要があるので、毎晩毎晩、私のサマースクールの宿題と小学校の書類と戦っていました。おかげで、飛ばし読みとサインがうまくなりました。

はじめてのアメリカの小学校

日本の小学校は4月に新学期が始まりますが、アメリカの小学校は9月から新学期が始まります。我が家の子供たちだけでなく、現地の子供たちにとっても9月は新学期。みんなわくわくどきどきしながら

ら登校してました。日本と違い、小学生も登下校には親が同伴します。息子は歩いてJSISへ、娘はJSISの前からB.F.Day行きのバスに乗って登校です。息子のほうは同じクラスに2人の日本人の男の子がいて、初日から楽しく登校しました。しかし、娘のほうは待てど暮らせどバスが来ない。しかたなく、車を出して学校まで送りました。先生いわく、「最初の1週間はそんなもんよ〜」。先生に娘を引き渡したのですが、案の定、娘は嫌がり、引き渡すのにちょっと苦労しました。でも嫌がるのは当たり前。初めての学校というだけでなく、言葉がまったく通じないのです。でも最初の1〜2週間を過ぎたころからはだんだん安定して通ってくれるようになりました。



学校に向かう子供たち

BOCに通う息子は、英語の読み書き聞き取りを順序良くトレーニングし、徐々に英語がしゃべれるようになって来ました。でも、先生が中国人のため、中国なまりの変な英語を覚えてきます。一方、娘のほうは最初からどっぴりとネイティブの英語に浸っています。最初は苦労したみたいですが、次第に友達も増え、3ヶ月を過ぎたあたりから娘はどんどん英語を覚え始めてきました。半年経ったころには友達とぺらぺらおしゃべりをしていて、しかも発音はネイティブ。家族で一番アメリカ人に近くなっていました。

スケジュール

アメリカの小学校は1年間で180日ぐらいしか開校しないためか、1日が長いのです。月〜金、朝9時〜夕方3時半まで。送り迎えのバスも入れると、人によっては朝8時にバスに乗ってから夕方4時半

ぐらいまで帰ってこない人もいるようです。教室は日本より少し広めで、全員が座る机と机に加えて全員が集まるスペースやパソコンのスペースなどもあります。授業内容は日本とあまり変わらず、算数、国語、社会、体育、図工、音楽などのクラスがあります。体育や音楽などは専門の先生が授業を行うこともあります。ちょっとちがうのは、授業が割と自由なこと。生徒全員が黒板に向いて座ることは稀で、グループになって座ったり、好きなところに座ったり。授業中に席を立ったりすることもしばしば。ボランティア精神を育てるためか、先生が生徒にいろいろ頼むこともあるみたいです。

ランチは持参するか、その場で購入することになっています。購入できるランチはアメリカらしくハンバーガーやサンドイッチ。ジュースやお菓子も買えます。ランチの時間は本当にバラエティに富んでいるらしく、きちんとしたランチを持ってくる子もいれば、お菓子とジュースしか持ってこない子もいて、日本の給食制度からすれば、信じられない光景です。

休み時間はリセスといいます。日本とほぼ同じ頻度でリセスが設けられているのですが、唯一異なる点は雨でもリセスをやるという点。しかも強制的に外に放り出されます。雨の多いシアトルでは、雨ごときでリセスをやめていたらリセスがなくなってしまう、というのが理由らしいのですが、こどもたちはいつもびしょぬれ。仕方ないので雨に強い靴を履かせたり、スキーのウェアを着せたりして風邪を引かないようにしてあげました。



学校のハロウィーンパーティ

誕生日会

アメリカ人の友達が多い娘は、年末ごろからお友達の誕生日会に呼ばれるようになりました。アメリカの子供にとって誕生日は特別な日なのです。友達を呼んでみんなで遊べるし、友達からいっぱいおもちゃをもらえるし、好きなものを食べられるし。家族や親戚も集まるのでまさに一大家族イベントです。場所は、自宅だけでなく、近くの公園やビーチなどのパティースペースを借りて行うこともあります。ファーストフードショップやゲームセンター、公共のプールまでもがパーティールームを貸し出していて、休日にはどこのパーティールームも誕生日会でいっぱいです。親戚や家族、お友達だけでなく、友達の親や兄弟も集まるので、1つの誕生日会で50人以上集まることもあるようです。こういう機会が多いので、アメリカでは子供を通して親同士がとても仲良くなっています。私たちが仲良くなった友達家族と一緒にスキーをしたり、公園で遊んだりしました。

ボランティア

アメリカはボランティアの国。親は常にボランティアをして学校の運営に参加することを要求されます。私は日本語クラスのボランティアを少しだけやりました。そして、何を思ったのか、妻は絵本の読み聞かせのボランティアをやりたいと言いはじめました。英語の絵本を読み聞かせるほどの英語力があるとはとても思えないのですが、案の定、1回やったら「じゃ、次回からは補助に回ってくださいね」と言われてしまったようです。しかしそのチャレンジ精神には脱帽です。結局妻は体育のボランティアを1年間続けました。ボランティアは学校にとっても助かるようなのですが、私たちにとってもいい英語の勉強場となり、そして子供たちの学校生活を見ることができるいい機会となりました。

引越し

BOCに通っていた息子は、半年経った2月にBOCを卒業して娘と同じB.F.Day Schoolの通常クラ

スに通いました。そして6月末、学校が終わって夏休みに入るタイミングでシアトルでの学校生活が終了しました。私の仕事の都合でワシントンDCに引っ越すためです。子供たちはB.F.Day Schoolの先生達やたくさんのお友達とお別れをしました。1年間でここまでアメリカ生活に慣れ、最後は英語でお別れを言えるようになったことは、本当に驚きです。子供たちの学校生活を、ボランティアなどを通して見守ってくれた妻には、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、夏休みが終わった9月7日の朝、子供たちはワシントンDCの隣のバージニア州にあるShrevewood Elementary Schoolという小学校に元気に通い始めました。今度はどんな先生やお友達と出えるのでしょうか。



小学校の友達家族と（右端が筆者）



スクールバスで新たな小学校へ



安近短リゾート 佐渡島

細 田 浩 一（稲門弁理士クラブ）

佐渡に行って来た。

この夏休みを利用して、妻と二人で佐渡島に一泊旅行をして来た。今年の夏は私の仕事が若干忙しく、妻もあまり遠出し



たくないと言っていたので近場で過ごそうと思っていたのだが、ふとしたきっかけで「佐渡」の話題が持ち上がり、最安ツアーをネット上で探して急遽申し込んだのだった。

価格は、ここではとても開示できないほど安かったが、往復の新幹線、フェリーのほか宿泊や島内バス観光まですべて付いていた。難点といえば、自由時間がほとんど無いという極度の拘束性ぐらいであろうか。しかしその難点も、「初めての場所を手っ取り早く観光したい！」という気持ちの我々にとっては大変有り難いものだったといえよう。

さて当日の朝、東京駅八重洲口に集合した我々は、老若男女さまざまの総勢80名と合流した。私も妻も、過去に団体旅行というものには参加したことがほとんどなかったため、他の参加者が一体どんな人なのかについて不安を覚えていた。おそらく年配の人ばかりで、我々が最年少なのではなかろうかと予想していたのだが、そんなことはなく、むしろ我々の年齢は平均値かそれより少し上ぐらいだったように思う。

集合時刻を5分ほど過ぎた頃に、ツアーコンダクターのおばさまが集合の号令を発した。

「まだ4名ほどお集り頂いておりませんが、集合時刻を過ぎておりますので・・・」

一通り説明が済み、その間に残り4名も集まったところで、ツアコンのおばさまがおもむろに旗を取り出した。例の、団体旅行には欠かせない、ツアー

参加者がはぐれないための目印となる旗である。これまで四十年余、旗の後をついて回る団体旅行なんかつまらないと主張し続けて来た私にとってはどこか屈辱的でさえあったのだが、今はその旗だけが頼りだった。八重洲口改札から新幹線ホームまでは、まるで餌の在り処を見つけた蟻の大群が、きれいな列を作って正確に餌場まで到達するような光景だった。

かくして我々の佐渡旅行はスタートした。しかし手っ取り早い極楽観光ツアーであるがゆえに、それぞれの観光スポットが断片的に頭の中に記憶されたままである。「佐渡行ったの？どうだった??」と聞かれた時にスムーズに答えられるように、自分の記憶を以下で整理しておこうと思う。

1. 朱鷺(トキ)

何故佐渡島に行くのか。その根拠は薄弱で、行ったことの無い大きな島に行きたいという程度のものだった。



後で調べてみると、日本の中の島で佐渡島は4番目の大きさを持つらしいことがわかった。1位、2位は北海道の択捉島、国後島らしい。3位の沖縄本島は二人とも行ったことがあったので条件から外れているし、1位、2位はそう簡単には行けない場所にある。とりあえず、とっさの思い付きにしては良い選択をしたのかもしれない。

そんな私にとっても、佐渡島が朱鷺の生息地であることは知っていた。そして妻は何よりもトキの森公園に行くのが楽しみだったようである。トキの森公園にバスが到着する直前に、現地バスガイドが「トキは現在、佐渡島に何羽いるか知ってますか〜？正解は、だいたい200羽ぐらいですう〜」と教えて

くれて、少し興ざめしたものだったが、この目で朱鷺を目にすることができて有意義だった。ただ、朱鷺を飼う檻がかなり遠く離れて設置されていたため、あまりよく見えなかったのは残念である。なんでも朱鷺は繊細な鳥なのだそうだ。一方で、昔は農作物を荒らす害鳥扱いされていたらしいのだが。

2. 金山

佐渡には金山がある。これも有名な事実である。しかし、つい最近の平成の時代まで金の採掘が行われてい



たことは知らなかった。多くの人は、江戸時代に金貨などを作るために使われていて、今は廃山となっているものと信じているのではなかろうか。

佐渡金山の中には、精巧なハイテク人形や採掘器具の模型が多数設置されていて、順路に沿って肌寒い坑道の中を歩くと、昔の過酷な労働環境を知ることができる。

ハイテク人形といえば、佐渡の歴史を紹介する資料館のような施設が佐渡島にはあって、そこにも多数のハイテク人形が設置されていた。かつて島流しの刑により佐渡島にやってきた世阿弥や、日蓮聖人が表情も豊かに動いていたが、もっと驚いたのは、北朝鮮から日本に送致されたジェンキンス氏が働いていたことである。生ジェンキンスさんは土産物屋で販売員をしていた。数年前にTVで見た姿とは違って、ややメタボな体つきになっていた。元気そうで何よりだ。

3. たらい舟

ツアー日程表によれば佐渡名物らしいのだが、たらい舟について私は全く知らなかった。妻もあまりよく知らなかったようだが、行く前からとても楽しみにしていた。



たらい舟とは、いわゆるタライに似たような形を

した舟であり、主として漁に使われているらしい。まっすぐ漕ぐのに習熟が必要で、これを観光客に体験させて、うまく進まないのをハタから見て面白がるのである。但し、始めから終わりまで観光客に全て漕がせてしまっては収集が付かないので、漕ぎの達者なおばさん船頭が船着き場と舟漕ぎ体験の場所との間を漕いでくれるのだ。

夫婦を代表して、私がたらい舟を漕いでみた。一生懸命漕いだものの、その場で舟はただ自転し続けたのだった。

4. おけさ

佐渡といえば「佐渡おけさ」という言葉が思い付く割に、おけさがどんなものかはよく知らなかった。阿波



踊りのような早いリズムなのか、盆踊りのようなゆっくりとしたリズムなのかさえわからなかった。夕食を食べた後、旅館のロビーで佐渡おけさレッスンが催されていたので、試しに見に行ってみた。どこかで見たような盆踊りに似た舞踊であった。

5. 島の風景

とにかく効率的に島全体を観光するという趣旨のツアーだったので、主要な観光スポットは回れたものの、



TVの旅番組を見たような感じで、佐渡島に「行った！」という感覚があまりなかった。しかし、気に入ったらまた自分達で計画して旅行をすれば良いという思いで申し込んだツアーだったので、格安の値段も含めてトータルで良い夏休みになったと思う。

今回の旅行で最も私の印象に残ったのは、旅館のそばにあった田園風景である。夕食前の短い自由時間に散歩をして、坂を下りて湖を見に行っただけでも気持ち良かった。また今度佐渡島に来るとしたら、こういうゆっくりした時間を過ごしたいものだ。

以上

都電荒川線での散歩

岩 田 啓 (稲門弁理士クラブ)

1. 都電荒川線

皇居から北西に5 km、都の西北にある早稲田大学の裏手に、小さな「早稲田駅」があります。10両編成の地下鉄が停まる早稲田駅ではありません。1両編成の路面電車、都電荒川線の始発駅です。都電荒川線は下町を「のんびり」走り、都心から離れていないにもかかわらずゆったりした気分を味わえる。そんなイメージに惹かれ、その沿線を散歩してみることにしました。

都電荒川線は、都電の名の通り電気によって移動する「電車」です。が、内装も速度も規模も、バスに似た乗り物です。大部分は自動車道路から独立した専用軌道上を走りますが、一部、車道上に作られた軌道も走ります。乗客が降りる際には、壁につけられたブザーを押して降車の意図を知らせます。最高速度は時速40km。始発から終点までの軌道全長はわずか12.2kmで、かかる時間は50分です。およそJ R山手線の北部にあたる地域を、200m～600mおきにある30の駅に停まります。ちなみに、都電荒川線では「駅」とはいわず、

「停留場」と呼ぶようです。停留場は歩道と直結しており、通常の電車の駅にある改札はありません。



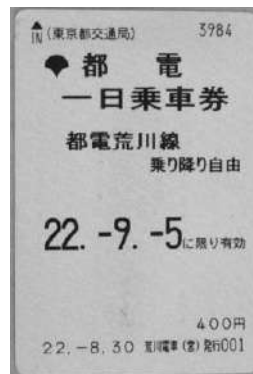
車道上で「信号待ち」をする荒川線。今はこの王子駅前～飛鳥山間のみが、車道との純粋な併用区間となっています。

2. 一日乗車券で

都電荒川線の散歩は、都電一日乗車券を使うのが便利です。400円で1日何度でも乗り降りできます。車内で販売しているため、乗車時に乗務員さんに声をかけることで手に入ります。PASMOのICチ

ップに1日無料機能を電子的に付加する近代的な乗車券もあるようですが、今回は古くからある紙製の乗車券を使いました。

車内で販売される紙製の乗車券。紙製に限り、いくつかの沿線施設で割引が受けられます。



3. 巢鴨地蔵通り商店街

～とげぬき地蔵 (庚申塚停留場)

早稲田から乗ること16分の庚申塚。都電荒川線沿線の名所といえば、やはり巢鴨地蔵通り商店街ではないでしょうか。この商店街、「おばあちゃんの銀座（や原宿）」と呼ばれるらしいです。「銀座（原宿）」と呼ばれる割には、洋服や喫茶店の占める割合は高くありません。食事処、和菓子屋、お土産屋、コンビニ、電気屋、薬局…など、200軒もの様々なお店が800m続く地蔵通りに並んでいます。観光客向けのお店と地域住民向けのお店が所狭しと並んでいて、趣向の違う縁日にいるようです。老若男女の観光客が巢鴨の住民に加わって、通りは大変賑わっていました。



レトロな雰囲気のお店からモダンなお店まで、通り沿いにびっしりとお店が並んでいます。

巢鴨地蔵通りのちょうど真ん中あたりに、「とげぬき地蔵尊」の名で親しまれる高岩寺があります。地蔵菩薩は秘仏とのことで、直接拝見することはできないようです。お参りだけを済ませた後、ふと横を見ると敷地内に20人ほどの列ができていました。興味を持って並んでみると、列の先の人々が観音様の

石像に水をかけてせっせと洗っていました。後で調べたところによると、その観音様は「洗い観音」と言われ、水をかけて自分の悪いところを洗えば、その悪いところを治してくれるとのこと。最近集中力がなくて、頭を集中的に洗って差し上げれば…と思いましたが後の祭。何事も、訪れる前に調べておくことが必要ですね。



残暑の中、観音様も水を浴びて気持ちよさそうでした。

4. 紙の博物館（飛鳥山停留場）

庚申塚停留場から5分で飛鳥山停留場です。ここでは、最初の写真のように、路面を走る都電荒川線を歩道橋から見ることができます。その歩道橋を渡ったところに飛鳥山公園があります。この公園は八代将軍徳川吉宗が桜の名所にする目的で作られた公園で、今も650本もの桜が植えられています。私が今回訪れた夏は桜の季節とは違いますが、家族連れで大変賑わっており、いい雰囲気でした。特に、公園の真ん中にある大きな噴水にたくさんの子供達が集まって、元気に水遊びをしているのがほほえましかったです。

飛鳥山のある北区王子の地は、明治初期に近代の製紙工場のさきがけとなった今の王子製紙の工場が設立された地で、「洋紙発祥の地」として知られています。これと関連して、飛鳥山公園内には紙の種類や製法が紹介された「紙の博物館」があります。都電荒川線の日乗車券の割引特典もあるとのこと、流れにまかせて入ってみました。

紙の博物館は小さめの4階建ての建物で、展示の全てを見て回っても1時間ばかりの大きさです。ただ、創立60年の蓄積と現在のハイテクの説明が相まって、内容は様々な紙の材料、リサイクルの手順、紙の製造に係る装置の変遷に至るまで、解説や展示が非常に充実していました。しかも、巡回するボランティアの解説員が親切・丁寧の説明をしてくれます。製紙会社を引退されたとお見受けできる方が多く、数字を交えて非常に専門的な内容を詳しく教

えてくださいました。ただ、これは私が特許弁理士の仕事柄、普段の客以上に興味を持って尋ねていたのも一因かと思います。以前出願で関わったものの作り方などを垣間見ることができて、散歩の途中で思いがけず有意義な時間を過ごせました。



飛鳥山公園内にある「紙の博物館」。展示内容は充実しています。

5. おわりに

結局、始発の早稲田から出発してから、庚申塚と飛鳥山の他はほとんど降りずに終点の三ノ輪橋まで移動しました。当初は「のんびり」と移動するつもりだったのですが、30もの停留場がある割に、あっという間に着いてしまったという印象です。停留場の中には住宅街の中にある小さなものも多く、停止ブザーが押されないまま通過することも多かったためかと思います。また、休日にもかかわらず、停留場には次の都電が5分もかからず来るため、とても「のんびり」と運行しているようには思えません。

都電荒川線は、他の路面電車が自動車の普及に押されて次々と廃止される中、熱烈なファンの声もあって下町に唯一残った路線だと聞きました。でも今回実際に乗ってみて、決して「のんびり」と観光するために残されたのではなく、地域住民の利便性が一番に考慮されて残されたものだ実感しました。実際、乗換え可能な路線の数は4社10路線と、非常に便利です。都電荒川線の印象として、地方の小さな電車のような「のんびり」としたものを抱いていた私は、ちょっとした発見をした気分でした。

以前、都電荒川線のそばにしばらく住んでいたこともあり、その存在は当然知っていました。が、改めて訪れてみると、意外と発見があるものです。発見を得るために、日常とは全く違う遠い場所を訪れるのもいいですが、近場であっても、感性や好奇心を豊かにすれば、意外と発見は得られるものなのかも知れません。今後、そばにあるものの意味や素晴らしさをも感じられるように、感性や好奇心を豊かにして過ごしていこうと思います。

スペインの思い出 (芸術家：ガウディとピカソについて)

窪 田 稚 之 (稲門弁理士クラブ)

はじめに

2008年5月、私は以前から興味があったスペインに旅行で行って来ました。その際の主な目的は、サグラダ・ファミリア教会で有名な建築家アントニオ・ガウディの建築物と、マドリードの美術館（ソフィア王妃芸術センター）にあるピカソのゲルニカを見ることでした。

もちろん、サッカーの試合を見たい、スペイン料理を楽しみたい等の目的もありましたが、各巨匠の作品をより間近で見たい！ということが一番の目的でした。

ガウディやピカソという偉大な芸術家の作品に、彼らの地元で、より臨場感を持って接することが出来る絶好の機会となったのです。

ガウディの故郷・スペイン第2の都市・バルセロナ

まずは、ガウディの故郷であるバルセロナについて簡単に説明します。バルセロナはマドリードに次ぐスペイン第2の都市で、人口は約160万人（バルセロナ圏で約300万人）になります。サッカーのFCバルセロナの本拠地であり、日本の神戸市の姉妹都市でもあります。文化的にはカタルーニャ語を話す者が多く、ガウディ、ピカソ、ミロ等を輩出した（一時期を過ごした）文化的な街でもあります。地中海に面した港町であり、その開放的な雰囲気が、多くの芸術家を輩出した土壌となっている気がします。

サグラダ・ファミリア教会とガウディ

ガウディの作品として有名なサグラダ・ファミリア教会は、日本語で聖家族贖罪教会といい、イエス・キリストの誕生を表す東の建物や、キリストの受難を表す西の建物等より成り立っています。そもそもガウディは、教会の詳細な設計図を残しておらず、模型や実験道具を用いて、その構造を検討したとい

われています。

このサグラダ・ファミリア教会は、日本人彫刻家・外尾悦郎氏（コーヒーのコマーシャルでお馴染みの「違いの分かる男」）も、その建設に携わっています。私が現地のガイドから聞いた話では、同教会は着工から120年以上経過していますが、もしスタッフ全員が日本人であれば、とっくに出来上がっていたそうです。それだけ、スペイン人は悠長なのでしょうか（笑）。

因みに、2006年には教会の直下に高速鉄道のトンネルを建設する計画が持ち上がり、教会側は地元自治体にトンネル建設中止を要請しました。この騒動の中で、実は教会が市から正式な建築許可を受けておらず、違法建築であることが分かった、という笑い話もあります。

さて、ガウディの生立ちに関して、幼い頃は病弱であったため、他の子供達と遊ぶ機会が少なく、独りで自然をよく観察したというエピソードが残っています。彼の建築物には、自然（花や葉等）をモチーフとしたものが多く、また一度利用した廃材を再利用する等、今でいうと極めてエコな建築家でした。ただ、当時は「なぜ、わざわざ廃材を利用するのか」といった批判を浴び、なかなか理解されない面があったようです。実際、彼は極めて時代を先取りした建築家であったのです。

また、彼の最期は仕事場に行く途中で馬車に轢かれて亡くなるのですが、余りに質素な身なりのため、建築家とは見られず、しばらく放置されていた、というエピソードも残っています。

ガウディは後世に大変名前が知られている建築家ですが、生前は決して恵まれた生活とは言えませんでした。

私自身は、逆境の中でも自分の信念を貫き、後世に名が残る仕事をしたガウディに、純粋に憧れ、彼

の作品群が大変気に入っています。

ピカソのゲルニカ

ご存知の方も多いと思いますが、ピカソのゲルニカは、「スペイン内戦中の1937年、フランコ将軍の依頼によりドイツ空軍が空爆した都市、バスク地方のゲルニカ」を描いたものです。死んだ子を抱いて泣き叫ぶ母親、天に救いを求める人、狂ったように荒れ狂う馬などが、モチーフとされています。実際、その大きな絵（縦3.5m、横7.8m）を間近に見たときは、鳥肌が立ち、「どうやったら、こんな絵が描けるのだろう。」という驚きと感動で、胸がいっぱいになりました。

鑑賞後は、「やはり戦争は良くない」という教科書的な発想に至りましたが、一方で現地のガイドから、『ピカソには愛人がおり、当時の愛人が「ゲルニカ」の製作過程を写真に撮っていた』と聞き、巨匠は私生活も大胆だったな、と少しビックリしてしまいました。

ゲルニカは、かつてアメリカのニューヨーク近代美術館に長期間預けられていましたが、フランコ将軍とピカソの死後、1981年にスペインに里帰りしたという経緯を持っています。

絵自身の長旅も、絵自体に深みを与えているような気がしました。

ピカソの晩年

ピカソは晩年に、性的な銅版画を製作し、「狂った老人のポルノ幻想」等の批判を受けています。しかしながら、本人はそうした悪評を全く気にせず、「やっと子供らしい絵が描けるようになった」と大変満足していた、といわれています。

私自身は、最後まで自分を貫き、時代を先取りしてしたピカソの姿勢に、畏敬の念を抱き、彼の作品、特にゲルニカが気に入っています。

ガウディとピカソのキャラクター

簡単に2人の巨匠を紹介させて頂きましたが、両名のキャラクターは、一見正反対に見えます。ガウディは生涯独身で、自然を愛し「静」的な印象を受けます。女性に対してははかなり奥手で、何度か失恋を経験し、なかなか女性に縁のなかった巨匠のよう

です。

それに対して、ピカソは生涯2度結婚し、3人の女性の間に4人の子供を作り、その風貌からも「動」的な印象を受けます。女性に対しては非常に積極的で、愛人関係を持った女性も数多くいた、といわれています。

このように対照的なキャラクターの2人ですが、仕事に対する姿勢には、共通するものが見られます。それは、時代を先取りしていた点、自分の信念を貫いた点や非常に独創的であった点です。サグラダ・ファミリア教会やゲルニカを見てみると、彼らの思いがよく伝わってきます。決して他人の模倣をする訳ではなく、自分のオリジナリティを大切にし、自分で考えたり感じたりしたことを表現しているのです。

ガウディは、サグラダ・ファミリア教会が自分の生きている間に完成しないことを知っていながら、晩年は労力を惜しまず、自然との調和をテーマとして、その建築に生涯を捧げました。

また、ピカソは様々な批判があることを承知の上で、ゲルニカという反戦の絵（当時のフランコ政権を痛烈に批判する絵）を描き、また名声を確立してからも、様々な論議を呼ぶことが予想される性的な絵を描いたりしています。

翻って自分を見つめ直した場合、弁理士資格を取得する前はサラリーマン生活をしていた、という背景もありますが、どうしても他人の目というものを、意識してしまいます。もちろん、客先に評価される仕事をする、上司に納得して貰える提案をする等は、社会人の常識であり、他人の目を意識することが一概に悪い、とは思いません。しかし、大なり小なり「自分の信念を貫いているか」「自分らしい独創的な仕事をしているか」「次の時代を見据えた、本当にしなければならない事があるのではないか」と、2人の巨匠の作品に触れると、彼らから問いかけられている気がしてきます。

最後になりますが、スペイン旅行は、航空会社のマイルの蓄積に大いに貢献すると同時に、自分の精神面にも多くの思い出の蓄積を与えてくれました。

昨今は景気がイマイチのため、厳しい仕事環境が続きますが、また別の国を旅して、精神面のマイルを貯めていきたい、と思う今日この頃です。

弁理士と特許調査

角 田 朗（稲門弁理士クラブ）

1. 現在の業務

私は現在特許事務所に勤務していますが、勤務先の調査部で国内外の特許調査のみを担当しています。明細書の作成や願書の作成など、出願業務には全くタッチしていません。特許事務所勤務の弁理士で出願書類の作成を全く行わないのは、珍しいと思います。

2. 特許調査を担当したきっかけ

現在の事務所へ入る前は、特許調査会社で3年弱、国内外の特許調査を担当していました。その前は半導体エンジニアでした。そのため、私が特許業界に入ってから業務は、ほぼ全てが特許調査に関する内容になります。

私の学生時代の専攻は物理化学の理論研究で、その後は半導体の製造プロセスやトランジスタ特性のコンピュータシミュレーションを担当していました。特許業界に入る際に特許調査の仕事を選んだのは、元々、理論研究やシミュレーションを専門とした関係上、コンピュータを使うことが得意だったことと、研究テーマ上、論文などを調べる必要が多い仕事だったため、特許調査は自分に向いていると考えたからです。

3. 特許調査の内容

特許調査というと、弁理士の先生方は、特許出願前の先行技術調査をイメージされる方も多いと思います。明細書作成前に先行技術調査をして、出願時の明細書へ【特許文献1】、【特許文献2】等を記載されている先生方も多いと思います。それから、商標系の先生方は、類似関係にある商標の調査をされていると思います。特許調査とは、情報提供や無効審判請求のための証拠探しと捉える方もおられるでしょう。また、特許庁出身の先生方は、調査は拒絶

理由通知のための証拠探しというイメージを持たれているかもしれません。

しかしながら、発明の新規性・進歩性等を検証するための、先行技術調査や無効資料調査は、特許調査業務の一部に過ぎません。これ以外にも、侵害予防調査（パテントクリアランス）、技術動向調査、技術区分付け調査、パテントマップ作成、論文雑誌等一般文献の無効資料調査、リーガルステータス等の書誌調査など、調査業務は多岐に渡ります。そして、ご存じのように、各国の特許法では公知例について、刊行物の国内・国外を問いませんし、権利は国ごとに発生しますので、外国特許調査が必要な場合も多々あります。

実際、特許調査は、1時間程度で終わる書誌調査から、複数人で担当して1ヶ月以上かかる技術分類付けの調査まで、調査の種類と規模は様々です。それゆえ、事務所内では出願の担当者に比べて、お客様への見積書を作成する機会が多くなっています。

見積書は、一件数万円といった概算で作成する場合がありますが、発明内容を理解した後、検索式を作成して調査の規模を予想してから見積もる場合が多いです。そして、見積を送付し、お客様から仕事を受任すると、特許調査を開始します。調査では数百件から数千件の公報を読むこともあり、結構重労働です。仕事を効率良く進めるには、ノイズと呼ばれる不要な公報を瞬時に判断して読み飛ばすテクニックも必要になります。

特許公報は国内だけでも毎年30万件から40万件発行されますので、特許調査を行うには、特許分類に関する知識が必須となります。実際に特許調査で用いるのは、国際特許分類（IPC）ではなく、FI記号、

Fターム、USクラス、欧州特許分類（ECLA）など各国（各機関）の独自分類です。

それから、調査ツールであるデータベースに習熟することも必要になります。データベースは各ベンダーごとのクセがあり、同じ条件で検索すれば、どのデータベースを使っても同じ結果とはならないのです。

いくら発明の理解が上手で、特許法や審査基準に精通している方でも、（当たり前ながら）、特許分類とデータベースを駆使して、必要な公報等を探し出せないことには、特許調査担当者は務まりません。ツールにあまり影響されない明細書の作成とは違った面があるとも言えます。

4. その他の関連業務

お客様からのご要望で、特許調査に関するセミナー講師を担当することもあります。この3年間で10回位担当したように思います。元々、私は人前でしゃべるのが上手ではなく、最初講師を務めた際は緊張の連続でしたが、5回位で慣れてきて、今では直前に慌てることもなくなりました。それから、勤務先がお客様へ配布する冊子に、特許調査業務を紹介するため二度ほど記事を作成しました。

特許調査では新規性、進歩性、拡大先願、侵害（技術的範囲）の判断など、鑑定的なスキルも要求されますが、弁理士試験や弁理士登録前の実務修習等で勉強した内容が、大いに役立っています。また、技術動向調査やパテントマップ作成では、仮定を立てて検証するといった経営的なセンスも必要になります。外国の特許調査では、英語など語学力、技術の理解に加えて、各国の特許制度に関する知識も必要になります。

要求されるスキルが多岐に渡り、正直しんどいと思うこともあります。反面やりがいのある仕事です。特許事務所では企業の知的財産部とは異なり、権利化前の業務が大半と思いますが、特許調査では侵害予防調査や無効資料調査など権利化後の業務に携わることができるのも魅力だと思います。

はありませんが、上述のように弁理士としてのスキルを生かせる業務だと思います。特許調査業務は弁理士や技術士など資格がなくてもでき、特許調査会社など参入者が多く、競争の激しい面があるのも確かです。そのため、出願や中間処理に比べて儲からないイメージを持たれている方もおられるかもしれません。それに、大手メーカーさんには、特許調査子会社があって、特許事務所員よりもお客様の方が特許調査に詳しい場合もあると思います。

しかし、特許法や審査基準、判例等を理解したうえで特許調査を行っている方は少数のため、弁理士が特許調査を行うことで、他の調査担当者と差別化できる余地が大いにあると考えています。国内出願が減少傾向にある中、特許調査を弁理士の業務として取り組んで見るのも面白いと思い、私は弁理士試験合格後も特許調査の業務を続けています。

5. 特定侵害訴訟代理試験について

権利化後の仕事が多い仕事のため、スキルアップも兼ねて、今年は能力担保研修を受講し、特定侵害訴訟代理業務付記の試験勉強も進めています。将来訴訟代理人になる機会があるのかわかりませんが、弁護士先生のお話や民法・民事訴訟法の勉強は面白く、今後の特許調査業務にもフィードバックできる内容と考えています。付記試験に備え、日本弁理士会の自主研修制度を用いて、隔週で月曜日の夜に弁理士会館を借り、付記試験自主ゼミ東京（平日）というゼミも開催しました。ゼミには優秀な方々が集まり、過去問の検討を題材として議論を行いました。勉強の他に、勤務先や所属会派以外の新たな知り合いが出来たのも収穫でした。

付記試験が終わったら、次は語学と新興国の特許制度について勉強したいと思っています。ここ数年、欧米だけでなく、アジアやBRICs等の特許調査ニーズも急増しています。

この冊子が発行される頃、ちょうど付記試験も終わっている頃と思いますが、自分だけでなくゼミ生全員が合格することを願っております。

特許調査は弁理士法4条に規定される専権業務で

以上

サックスとあれこれ

破 魔 沙 織 (南甲弁理士クラブ)

1. はじめに

今回、原稿作成の依頼を受けましたが、このような原稿の依頼を受けたのは、弁理士になって以来初めてであり、何を書いてよいのか悩ましいところでしたが、ちょうど今年の春からアルト・サクソフォン（以下、サックス。）のレッスンに通い始めたので、今回、サックスのレッスンに関することについて書こうと思います。（書くネタが見つかって、本当に良かったです。）

2. 楽器の経歴

そもそも、私は5歳からピアノを習い始めたのがきっかけで音楽が好きになり、中学・高校では吹奏楽部に所属し、中学ではホルン、高校ではトランペットを担当していました。

また、その流れで大学のサークルは管弦楽団（オーケストラ）に所属し、そこでもまたトランペットを担当していました。

しかし、残念ながら、どの楽器に関しても中途半端で、人前で披露できるほどには上達せず、その上、大学時代に所属していた管弦楽団のメンバーは皆なかなかの腕の持ち主が揃っていたので、大学時代にトランペットを挫折。

しばらくはもう楽器は懲り懲りだと思い、楽器から離れることにしました。

3. サックスを始めたきっかけ

楽器はもう懲り懲りだと思ってはいたものの、楽器を吹く楽しさを知っている人ならわかると思いますが、楽器から離れるとその反動で楽器を吹きたくなるものです。

また、中学時代からサックスは憧れの楽器でしたので、いつかはサックスを習いたいとも思っていました（補足：中学時代、ジャンケンに負けてしまい、サックスを担当することができませんでした…）。

さらに、職場のすぐそばにサックスのレッスン教室があるというではありませんか。

普段はとても優柔不断な私ですが、職場の近くに教室があると知った翌日、今回に限っては迷うことなく、サックスのレッスンを申し込みに行きました。

4. 絶対音感

晴れてサックスのレッスンを始めたものの、サックスのレッスン1日目からある問題が生じました。

ここで、サックスは、譜面上の音と実際に出る音が異なる楽器であり、例えば、サックスの「ド」の音をピアノで表現するためには、「㇗ミ」の鍵盤を叩かなければなりません。

このように、サックスはなんとも複雑な仕組みの楽器であるため、何度練習しても、譜面上の音と自分の出している音が一致せず、頭がパニックを起こし、その結果、いつまで経っても楽譜を瞬時に読むことができません。

そこで、サックスの先生に相談したところ、なんと、私は「絶対音感保有者」であるため、譜面上の音と自分の出している音が一致して聴こえないのだということが判明しました。

まさか、5歳からピアノを習い始めた成果がこの歳になって現れるとは、思いもよりませんでした。

でも、よくよく考えてみましたら、たしかに、昔から耳で聴いた曲を楽譜がなくても容易にトランペットで再現することはできますし（技術力は別として…）、また、簡単な和音であれば何の音か大体わかります。

さらに、毎日部活で楽器を吹いていた頃は、耳で聴いただけで音の高低の絶妙な具合も判断でき、チューニングすることもできました。

これらのことを特別な事とは思わずに学生時代を過ごしてきましたが、今振り返ると、こんな平凡な私にも少しは取柄があるんだなあ、と我ながら感心してしまいました。

しかしながら、実際問題、譜面が読めないことには変わりありませんので、もどかしく辛いものがあります。

5. 最後に

今現在の私の課題は、例のごとく符読み、そして、タンニングです。

今後は、符読みとタンニングが上達するよう特訓し、数年後にはジャズの1曲ぐらい軽く吹けるようになりたいものです。

以 上

サッカー観戦の魅力

楠 和 也（南甲弁理士クラブ）

1. はじめに

今年の6月に行われた南アフリカワールドカップはご覧になられたでしょうか。2002年の日韓ワールドカップをピークにサッカーの人気の少しずつ衰えていって代表戦があってもスタジアムに空席が目立つようになっていくのを見て少し寂しく思っていました。岡田 J A P A N の大健闘によって久々にサッカーが全国的に注目されたように思います。夜中の3時頃に起きてテレビの前で応援していた人も少なくなかったのではないのでしょうか。今回のワールドカップでの活躍によって多くの選手が海外へ移籍し、本田選手や香川選手等の海外での活躍が頻繁に報道される等、ワールドカップの前と比べるとサッカーに対する注目度もかなり高まっているように感じます。そこで今回は、僭越ながらこの場をお借りしましてサッカー観戦時の注意点とともにその魅力をアピールしてみたいと思います。

2. 観戦前について

サッカー観戦といっても日本代表の試合は年に数回しかないため見に行ける機会が限られているだけでなく、開催される場所も東京であったり、大阪であったりと色々な場所で開催されます。これでは、そもそも見に行ける機会が限られてしまいますので、今回は3月から12月位までコンスタントにやっているJリーグの試合をおススメしたいと思います。私は地元が埼玉県旧浦和市に近いこともあって浦和レッズの応援に行くのですが、埼玉スタジアムの場合、一番前周辺の席を取った場合でも3500円程でチケットがとれます。ちなみに埼玉スタジアムはサッカー専用スタジアムのためフィールドと観客席との距離が短く、かなりの迫力とスピード感を体感できる上に、6万人収容のスタジアムでの地鳴りのような応援も本当に凄い迫力です。いや、本当に凄いというかゴールネット裏にいるレッズサポーターの応援はちょっとこわい位なんですけど・・・という訳で自分の家からホームスタジアムが近いところが便

利だとは思いますが、最良にするチームを見つけてみて下さい。地元のチームが頑張っているんだなっていうだけでも見に行った時に応援しがいがあると思います。

3. 観戦中の注意点など

実際見に行く際には、ユニフォームとチームカラーのタオルは必携のアイテムといっても過言ではありません。もちろん何れもスタジアム内で購入可能です。レプリカのユニフォームはそこそこ高い代物ですが、実際にスタジアムに行ってみると楽しむ利点はサポーターとの一体感というか、そういうところなので形から入るのはとても重要です。また、レッズのホームゲームの場合、5万を超える人達がみんな真っ赤なユニフォームを着て応援することになるため、一人だけ青い服とかを着ていると周りから異様に浮いてしまって少し恥ずかしい思いをするので、やはりレプリカのユニフォームを用意することを御勧めします。ちなみに、私は一度雨が降っていたので青色の合羽を持って行ったことがあったのですが、なんとなく着ることができずに雨の中濡れながら観戦する羽目になったこともありだったので、雨の場合は合羽の色にもご注意を。折角見に行ったにもかかわらず派手なゴールもなく、スコアレスドローで試合が終わった時は少し損した気分になることもあります。惜しいシュートに決めろよなーと溜め息をつき、危ないシーンにあぶねーと奇声を発しているだけでも結構楽しいといいますが、ストレス解消になりますし、その上で凄いゴールを見ることができればお酒がとっても美味しくなります。勝った後に飲むビールは最高です。

4. おわりに

結局抽象的な上に浦和レッズの宣伝のようになってしまった気もしますが、サッカー観戦も行ってみれば楽しいものです。少しでも興味がありましたら足を運んでみて下さい。

皆もすなる○○○といふものを

堀 研 一（南甲弁理士クラブ）

あれは、昨年の南甲東海（南甲弁理士クラブ東海支部）の幹事会の後に、いつものように皆で名古屋丸の内のワインバー、ムートンに飲みに行ったときだったでしょうか。いつもの部屋の長机のお誕生日席に長屋先生、その右手に向山先生、そのさらに隣に私が座り、シャンパンの一口も飲んだ頃。

長屋先生「ところで堀さん。私、堀さんに関して、最近、あるうわさを聞いたんですけど。」（with満面の笑み）

堀「ほほう。それはいったいどなたから聞いたのです？」（苦笑）

長屋先生「村山ノブヨシから。」（with満面の笑み）

堀「なるほど。それは、（堀が勤める事務所の）井上佳知さん経由（の流出）ですね。」（苦笑）

向山先生「なに、ついに決まったのか！？」（身を乗り出して）

これが、それまで秘密にしていた私の結婚話が南甲東海の先生方にオープンになった瞬間でした。向かい側に座っていた今埼先生や伊藤洋二先生からも「おお、堀君、ついに結婚するんか？」（はい、ついに結婚します）、「そういえば、最近、堀君は身なりもきちんとして、かっこいいもんね。」（いえ、それは昔からです）などなどお祝いの言葉をいただきました。ありがとうございました。

しかし、私はこれまで、自分よりも若い人たちが結婚するのを別に何とも思わずに見てきましたが、皆さん、こんな難事業（披露宴）をこなしてこれたのだとは、想像もしていませんでした。これほどまでに自分の意に染まぬことに、一生懸命、稼いでためた大金を投入することになるとは。たとえば、堀「十二単なんて、花嫁の衣装でも何でもないやないか。そんなもん、ただのコスプレやないか。」

ヨメ「いいの。一生に一度なんだからコスプレでもなんでもいいから、着たいの。」

堀「そんなこと言うなら、オレだって、バルタン星人の着ぐるみが着てみたい。」

ヨメ「いいよー。じゃあ、二人でバルタン星人とウルトラマンのコスプレで入場しようか。そのかわり、十二単もやるんだよ。」

そんなことをした日には、なんのイベントなんだ

か分かりゃしない。十二単は何とか阻止しました。

はたまた、最後に二人でピアノの連弾をして、加藤登紀子の「時には昔の話を」を歌うという。高校時代以来、何十年も弾いていないのだから、無理だというのに、彼女のマンションで何度も練習させられました。結局、間に合わなさそうだったので、彼女が弾いて私が歌い、サビは二人で歌うことに。披露宴にご出席いただいた皆様、私のスーザン・ボイルっぷり（分からない人は、webで動画検索してみてください）はいかがでしたか。Britain's Got Talentの会場ばりに、観客は感動の渦に包まれたのでしょうか？みっともないところをお見せし、失礼いたしました。

まあ、そんなこんなで、なんとか披露宴が終わったときには、本当にやれやれでした。

ところで、冒頭の飲み会の席では、話はごく自然に、「それで、伊藤浩二はどうなっとるんだ？」という話題に。南甲東海には、昨年まで、私をはじめ独身のイイ男が豊富にそろっていたわけですが、「ま、オダギリもちちょっと前に結婚したことだし。」（オダギリジョー、2008.2.16結婚）というわけでしょうか、少し前から中村繁元先生、水野祐啓先生と、次々と婚約発表がなされていたのであります。そうすると、残る大物筆頭は、自他共に認める二枚目エグゼクティブの伊藤浩二先生であります。中村、水野、堀を残念ながら獲得し損ねた全国の女性のみなさま、いま、この海道一のいい男は少しあせっているかもしれません。このチャンスを逃す手はありません。ぜひアタックしてみてください。幸福の女神は、必ずやあなたの頭上に微笑むことでしょう。



研究室の思い出

藤 沢 昭太郎（南甲弁理士クラブ）

1. はじめに

私は、文系の大学の出身であったため、弁理士になった後に、理系の大学に通学した。

これは、その際の4年次に入った研究室の思い出である。

2. 研究室の研究について

研究室の指導教授は、薄膜太陽電池を専門としており、我々の班に与えられた研究テーマは、ホール効果測定装置を構築し、作成した薄膜の電気的特性を測定するというものだった。そして私は、ホール効果測定装置の構築を担当することとなった。

具体的には、ソフトウェアを用いてホール効果を自動で測定する制御プログラムを組むことであった。しかし、そのソフトウェアは外国に本社のある会社の製品で、説明書は3分冊でぶ厚く、全て英語で書かれていた・・・。

英語の説明書を読むのはめんどくさかったので、「習うより慣れろ」ということで、最初の3ヶ月くらいは、説明書を読まずにソフトウェアを適当に動かしてみた。そして疑問点が出てきた場合には、新宿のジュンク堂書店に行って、そのソフトウェアの解説本を探して、立ち読みした。

しかし、なかなか疑問点は解消せず、うまくプログラムを構築することができなかった。うまくできないので次第に飽きてきて、研究室のみんなで、メガマックの大食い競争をした。そのため、研究室内がマックのにおいで一杯になって、指導教授に激しく怒られた。

また同じ班で、相棒の重ちゃんから、前日に合コンで出会った女の子が、雑誌の読者モデルだったと聞いた私は、重ちゃんと、次の日、書店に行って女性誌を片っ端から立ち読みしてその子を探したりした。

その結果、研究の進捗状況を報告する毎月の研究報告会では、良い成果を報告することができなかった。半年くらいたった頃、指導教授に「このままだと、単位は認定できない。」と怒られた私は、逆に腹を立て、「どうすれば、単位を認定してくれるか」と聞くと、「装置を構築したら、単位を認定するだけでなく、Aを与える。」との答えが返ってきた。

その答えに私は奮起し、はじめて真面目に英語の説明書を読んでみた。その結果、理解が進み、説明書で必要だと説明されているパーツは別売りで、新たに購入する必要があることが分かった。しかし絶対にこのパーツが必要であるとの、確信が持てず、指導教授に言えなかったのも、取り寄せて自腹で買った。

また、説明書を読んでも良く分からない箇所は、ソフトウェアの製造会社の日本支社に電話で直接問い合わせしてみようと思ったが、ソフトウェアの保守契約を結んでいないと、電話での問い合わせに応じてくれないとのことだった。しかし、私はあきらめず、日本支社に何度も電話を掛け、半ば強引に担当者につないでもらい、質問に答えてもらった。

この強引な問い合わせを何回も繰り返したおかげで、私の理解は急速に進み、その後、試行錯誤を繰り返した結果、ホール効果測定装置のプログラムは、調整や改良の余地はあるものの、うまく動作するようになった。かくして、私の卒業研究の評価は、Aだった。

3. 夏合宿について

夏休みには、我々の研究室は、長野県の諏訪にあるセミナーハウスに合宿しに行った。交通手段として我が家の車を出し、重ちゃんに高速道路での運転を任せた。おしゃべりに夢中になっていた重ちゃん

は、ガソリンは減ってきたのに気づかず、私が気づいた時には、燃料計の針は「E」の上にあった。高速道路上で止まってしまうのではないかと変な汗が、一杯出たが、何とかガソリンスタンドにたどりついた。

夏合宿中にも、研究報告会が行われた。私は、指導教授からのレジュメの作り直し命令に備えて、プリンターを車に積んで持って行った。案の定、レジュメの作り直し命令が多くの班で続出し、私のプリンターは大活躍した。しかし、使いすぎて、途中でインクがなくなった。パニックを起しかけたが、重ちゃんが近隣のヤマダ電機を携帯電話のネットで検索し、私はカーナビに住所を打ち込んで、晩御飯中に合宿所を抜け出してインクを買いに走った。

4. 卒業研究発表会と卒業研究の原稿作成について

卒業研究発表会は、卒業研究の概要をパワーポイントで作成し、これらのパワーポイントを一枚の紙に貼り付けてポスターにして発表する。このパワーポイントの作成では、指導教授から何度も何度も訂

正命令が出された。朝まで寝ないで作ったパワーポイントの図形を400%に拡大表示され、「線が、1ピクセルずれているだろ!」と怒られたことは今でも忘れられない。

卒業研究の原稿作成でも、指導教授から何度も何度も訂正命令が出された。締め切りが迫ってくると、時間がなくなり、大学に遅くまで残って原稿の訂正をした。大学は消灯時間になると、警備員の人が構内の照明を落としてしまうが、何度か暗闇の中で、ノートパソコンを使って必死に作業している我々を見た警備員の人は、気の毒に思って、我々のために、1つの教室だけ、消灯しないでくれるようになった。

5. おわりに

研究室での思い出は、上記以外にも一杯あって、ここでは書き切れない。指導教授は厳しく、研究は大変だったが、私は現役の学生の中に完全に溶け込み、2度目の大学生活を満喫した。満喫しすぎて、卒業旅行にも参加した……。



1 歳児と行く沖縄旅行

富 所 英 子 (P A 会)

●初めての沖縄旅行

2010年9月28日から4泊5日で、1歳になったばかりの息子と夫と私の3人で、沖縄旅行に行った。息子を連れて4泊もの旅行へ行くのは初めてで、出発前の準備では、わからないこと、不安、心配がたくさんあったが、結果的には予想以上に楽しい旅行となった。今回は旅行記というより、これから小さなお子さんを連れて旅行（特に沖縄）に行かれる先生達に何か参考になればと思い、沖縄旅行の荷物の準備や、ホテル、観光等について、書いてみたいと思う。

●旅行の準備

子供の荷物の中で、特にかさばる荷物として問題なのが、オムツとベビーフードである。オムツは当時1日に6～9枚程度使用しており、4泊5日だから最高で45枚くらい必要になる計算だ（但し、結果的にはそんなに必要はなかった。恐らく30枚くらいですんだと思う）。そんなに詰めたら、それだけでスーツケースが一杯になってしまう！

ベビーフードにも頭を悩ませた。当時、息子の食事は、朝・昼・晩の食事＋午後のおやつ、の計4食。旅行中、全食をベビーフードにすると、持っていく量は相当なものになる。それ以上に、全食ベビーフードが5日も続いたら、何となく息子に申し訳ないような・・・（まあこれは、普段から保育園でおいしい離乳食を食べさせて頂いているからと、家では簡単な手抜き離乳食しか作っていないのに、今度は旅行で丸5日間もベビーフードでいいの？という、悲しい負い目があったからなのだが。）

そこで膨大なオムツを持っていなくて済むよう、事前にネットで注文して、ホテル宛てに発送してもらった。その際に、ベビーフードも必要な分だけ注

文し、同梱してもらった。これで、持っていかなければいけない息子の荷物は、かなり減ったと思う。

一方、全食ベビーフードは・・・という問題については、朝食とおやつをホテルで調達することにし、お昼ご飯と夕食だけベビーフードを食べさせることにした。

ホテルについては後で詳述するが、私達が宿泊したホテル「ザ・ブセナテラス」には、朝食が食べられるレストランがいくつかあり、我々は毎日「ラ・ティエダ」というレストランの朝食ビュッフェを利用した（オープンテラスで食べる朝食は、格別！）。そこには、息子も食べることができる、パン、おかゆ、コーンフレーク、牛乳、ヨーグルト、バナナ、オレンジ、グレープフルーツなどが毎日用意されていたし、他にも日替わりでカボチャのバター煮、ほうれん草の炒め煮、フライドポテト等もあったので、朝食として食べさせるものには全く困らなかった。なお、「ラ・ティエダ」には、卵・乳製品を使用していないパン（アレルギー対応のパン）も置いてあったので、これらの食材にアレルギーがあるお子さんでも安心である。

荷物については、ベビーカーを持っていくか否かについても若干悩んだが、結局持っていかなかった。ほとんどの場合、必要な場所で借りることができるからだ。

空港までは車で行ったのでベビーカーは必要なかったし、空港では搭乗手続きをした際にベビーカーを借り、セキュリティゲート先の搭乗口まで使用させて頂いた（各自が持参するベビーカーは、通常、セキュリティゲートより先へは持ち込めない）。また、ブセナテラスでベビーカーをお借りしたので、後述する美ら海水族館に行った時はこのベビーカー

を持って行った。もちろん、美ら海水族館、アウトレットモール、DFS等では、ベビーカーを借りることができる。

●飛行機の中

旅行の荷物と同じく、いやそれ以上に出発前から頭を悩ませていたのは、飛行機の中で息子が騒いだらどうしよう、ということだった。一応、息子が飽きないように、音の出ないおもちゃや絵本等を手荷物に入れて飛行機に乗ったが、膝の上に抱っこされたままで、大人しくおもちゃで長時間遊ぶような息子ではない。

昼寝してくれれば一番安心なのだが、息子の睡魔がいつやってくるかはわからず、こちらとしては、飛行機に乗る前はなるべく眠らせないようにすることくらいしか、事前にできることはなかった。

幸いなことに、往復とも飛行機の出発時刻が息子の食事時間の少し前だったので、出発と同時に食事を食べさせ始め（小さな子は耳抜きができないので、離陸のときに飲食させるのは、この点でも効果的）、食べ終わって少しすると、息子は眠くなってお昼寝してくれた。往復とも、2時間ちょっとの飛行時間のうち、後半の1時間くらいは寝てくれたので、とても助かった。

なお、今回飛行機はJALを利用した。JALには、乳幼児を連れて飛行機に乗る人のために、「スマイルサポート」というサービスがあり、ベビーカーの貸し出し、一般乗客とは別カウンターでの搭乗手続きや手荷物の預け入れ等を行ってくれる。また、今回は追加料金（片道千円～二千元程度）を支払って、「クラスJ」という少し広い座席を利用した。夫と交代でずっと息子を抱っこしていなければならなかったため（その代わり息子の航空運賃は不要）、少しでも広い座席でとても助かった。乳幼児連れでJALに乗る方にはお薦めである。

●ホテル

今回宿泊したホテル「ザ・ブセナテラス」は、ハード面・ソフト面共に本当に素晴らしホテルだった。

ブセナテラスは、2000年沖縄サミットの会場とな

った万国津梁館に隣接する高級リゾートホテルなのだが、実は子供連れの宿泊客がとても多い。私達が滞在した期間中も、就学前の小さな乳幼児を連れてご家族の姿を多く見かけた。前述のレストラン「ラ・ティエダ」の朝食ビュッフェでは、私達が朝食を食べた時間帯、乳幼児連れの家族客が全体の半数以上を占めていたように思う。従って、レストランで子供が多少多騒ぐようなことがあっても、居心地が悪くなるというようなことは全くなかった（もちろん、子供が騒がないよう、できる限りの努力はすべきである）。ホテルの従業員の方々も子供に慣れており、名前を覚えて下さったりして、優しく接して頂いた。

とにかく、子供連れの宿泊客に対する配慮が行き届いている。例えば、部屋のベッドにベッドガードをつけて下さるだけでなく、ベッド自体を壁に寄せてくれるので、子供が落ちてしまいそうな隙間が少なく、大変助かった。もちろん、ベビーベッドやベビーカーの貸し出しもある。更には、哺乳瓶やマグカップの消毒もルームサービスでお願いできる。部屋まで哺乳瓶等を取りに来てくれ、消毒後は部屋まで持ってきてくれる親切さである。

部屋には電気ポットが備え付けてあり、ペットボトルのお水を1日2回補充してくれるので、子供のミルクや麦茶作りが容易な上、水の心配も一切せずに済んだ。

ブセナテラスの敷地内には、プライベートビーチやプール（屋内・屋外）があり、その他にもマリンスポーツができる場所もあるので、ホテルの外にいらなくても十分に子供と楽しめる。息子にマリンスポーツはまだ無理だったので、我々はグラス底ボートなるものを楽しんだ。底がガラス張りになっているボートで、海中の魚がとてもよく見える。こんなに沢山の魚、イソギンチャク、ヒトデなどが、ホテルの目と鼻の先の海中にいるなんて、ちょっと信じられない思いだった。スキューバダイビングの経験はないが、海に潜るとこんなに素晴らしい光景が見られるならば、一度やってみたいものである。

いつかまた沖縄を訪れることがあったら、必ずブ

セナテラスに宿泊したい。沖縄を訪れる方（特に子供連れの方）にも是非お勧めしたいホテルだ。

●観光（美ら海水族館）

基本的にインドア派（？）な我々は、旅行先でもそれほど観光をバリバリするタイプではない。ましてや今回は、息子を連れて初めて行く長期旅行で、且つ素敵なリゾートホテルに滞在するというので、基本的には食事遊びもホテル内の施設で済ませる予定にしていた。ただ1か所だけ、美ら海水族館にだけは、息子を是非とも連れて行きたい（そして、私も是非行きたい！）と思っていた。

美ら海水族館は、プセナテラスから車で約1時間の所にある。当初、10時くらいに着けばいいよね～などとのんびり考えていた私達であるが、下調べをするうち、どうも開館時間にあわせて行った方がいい、ということがわかった。というのは、10時くらいになると団体客のバスが次々と到着して混み出し、駐車場も埋まってきて入口近くには止められないから、ということらしい。ちなみに、開館時間は8時半である。

8時半に到着するためには、逆算すると5時ごろ起きなければならない。志は高く持って5時起きを目指したが、健闘むなしく30分遅れの起床となり、水族館に到着したのも9時ちょっと過ぎであった。

到着してみると、駐車場はまだガラガラ！水族館に近い場所に楽々止めることができた。が、館内は既に結構な混雑。修学旅行生達も既に来ていた。とはいえ、恐らくその後はさらに混雑が増していったと思うので、なるべく早く行って良かったと思う（1時ごろ水族館を後にした頃には、あんなにガラガラ

だった駐車場は満車になっていた）。

水族館には、色とりどりの美しい魚たち、大きなサメ、優雅に泳ぐエイ、可愛い眼をした亀などが沢山いて、水槽を移動するたびに、息子より大人の我々の方が大興奮していた。息子は夫に抱っこされ、無表情（？）のまま水槽を見ては、彼なりに一生懸命に魚を指さしていた。館内を一回りした後、イルカショーを見たが、息子はだんだん眠たくなってきたようで、残念ながらあまりショーは見えてくれなかった。ここでも大人の方が、イルカの愛らしい姿としなやかなジャンプに夢中になり、歓声を上げていた。とにかく、沖縄へ行ったら美ら海水族館は必見である。

なお、沖縄の主要なホテルからは、美ら海水族館への送迎バスに乗ることができると思うが、小さな子供連れの場合にはレンタカーの方が便利だと思う。

●最後に

小さな子供を連れての旅行は、子供が疲れてしまうのではないとか、子供が体調を崩して予定通りに出発できないかもしれないとか、子供が騒いだらどうしようとか、荷物が多くて準備が大変とか、とにかくいろいろな心配事が次から次へと湧き上がってきて、躊躇される方も多いと思う。私もそうであった。でも、旅先でしか見ることでできない子供の表情に触れると、準備の大変さやいろいろな心配したことなど、ふっとんでしまった。子供の体調を第一に考え、最大限周りの方にご迷惑をお掛けしないよう準備と努力をしつつ、これからも機会をみつけて、どんどん息子を連れて旅行に出掛けたいと思う。

中国パンダツアー

青 島 恵 美 (P A会)

1. はじめに

今回、この原稿を思わず引き受けてしまったものの、最近の話しで書けそうな内容のものがなくて、悩んだ末に2～3年程前に行ったパンダツアーについて書いてみることにしました。少し前の話なので、記憶が定かでない部分もあるのですが、そのあたりはご了承ください。

2. パンダツアー

私は、子供の頃からパンダが大好きで、いつか中国にパンダを見に行ってみたいと思っていました。幸運なことに、事務所にパンダ好きの同僚がいて、パンダの話で盛り上がり、中国四川省の臥龍というところにあるパンダ保護研究センターにパンダを見に行くことになりました。ちょうどいいタイミングでANAが中国就航20周年記念ということで「FLY! パンダ」号という飛行機に乗ってパンダを見に行くツアーを企画していたので、早速このツアーに申し込みました。

3. 「FLY! パンダ」号に大興奮

ANAの「FLY! パンダ」号というのは、パンダのデザインが描かれている特別便なのですが、その外観だけでなく、座席にもパンダをモチーフにした枕やシートカバーが用意されていたり、食事のとき出されるナプキンや紙コップなどあらゆるものにパンダの絵が描かれていて、デザートとして出されるシュークリームにすらパンダの顔のデザインが描かれています。もちろん、キャビンアテンダントさん達もパンダのデザインのエプロン着用です。私も同僚もいい大人なのですが、パンダづくしの機内を見ているうちについテンションが高くなってしまい（もともとミーハーなこともあり）、キャーキャーはしゃぎながら、機内やシュークリームやキャビンアテンダントさん等々ありとあらゆるものの写真を

撮りまくってしまいました。

4. パンダに会うのは命がけ

まず、飛行機は、四川省の省都である成都に到着し、次の日、臥龍に向けて出発しました。実は、臥龍のパンダセンターは成都から車で7～8時間もかかる山の中に位置しており（パンダが生息している場所なので遠くて当たり前なのですが。）、行くのがとっても大変な場所なのです。山道もこれはもはや道とはいえないのではないかとってしまうような道が延々と続いており、当然バスは常到大揺れ。しかも、道のところどころに落石の跡があるのです。岩が落ちてきたら、私たちの乗っているバスなんてひとたまりもありません。崖から転落する以外に道はないでしょう。お陰様で、長旅だったにもかかわらず、飽きることなく、スリリングな時(?)を過ごすことができました。正直、パンダに会うのがこんなに命がけとは知りませんでした。

5. ピンチ

長旅を経て、ようやく臥龍パンダセンターに到着しました。

パンダなんて上野動物園でいつも寝ているのしか見たことがなかったのですが、このセンターには多数のパンダがいて、全速力で走ったり、じゃれあったりしているパンダが見られるのです。「パンダってこんなに走るの速いんだー!」と感動してしまい、まともや大興奮しながら写真や動画を撮りまくってしまいました。

このツアーの売りは、ボランティアでパンダちゃんたちのお世話をした後に、子供のパンダちゃんたちと遊べるというものです。

まずは、パンダちゃんたちのお世話タイムが始まりました。

まず、大人のパンダちゃんたちに、人参やリンゴ

を檻ごしに与えるという任務を与えられました。もちろん、こんないいシャッターチャンスはないので、私も友人も各自の担当パンダちゃんに餌をあげつつ、交互に写真を撮り始めました。

ところが、そのときに気がついたのですが、なんと、2人ともデジカメの電池の残量が残りわずか。そうなんです。飛行機の機内で無駄に写真を撮りまくって貴重な電池を消耗した上に、2人とも充電をすっかり忘れてしまっていたので、これからいよいよ肝心のパンダちゃんたちとのお遊びタイムというときになって、電池がなくなってしまったのです。

その事実で動揺し、焦ってさらに意味のない写真を多数撮ってしまったため、まともや無駄に電池を消耗してしまい、なんと私のカメラはとうとう力尽きてしまいました。

6. 戦いを終えて

その他の任務を終え、とうとう子供のパンダちゃんたちと遊ばせてもらえるときがやってきました。これがこのツアーのクライマックスです。このためにはるばるこんな山奥まで来たにもかかわらず、写真や動画を撮れずに帰ったら、何のためにここまで来たのかという感じです。しかも、遊ばせてもらえる時間も非常に短い上に（確か10分程度だったと思うのですが。）、私たちにはもうすぐ電池が切れそうなカメラが一台しかありません。

様々なプレッシャー（？）のせいかパニック状態に陥りながらも、パンダちゃんを追っかけて、残り一台のカメラで撮影してということを繰り返した結果、とてもいい写真や映像がとれました。ここまで頑張ってくれた同僚のカメラに大感謝です。

ただ、帰国して、そのときの写真や映像を見てみたのですが、確かに、子パンダちゃん達に大接近して写真や映像をとっているのですが、パンダちゃん達はとてかわいく写っているのですが、一緒に写っている私たちの表情がいずれも怯えていて、まともな顔をしているのが一つもないのです。しかも、パンダちゃんと接触する前に着用するよう指示されたナ

イロンカバー（パンダちゃん達に私たちのばい菌がうつらないよう着用を義務づけられています。）がボロボロになってはがれ落ちてて、なんだかみすばらしい感じ。

思い返してみると、撮影中、パンダちゃん達に、殴られたり、ひっかかれたり、引っ張られたり、攻撃されっぱなしだったのですが、制限時間内にいい写真・映像をとろうと必死になっていたのも、自分がいかにボロボロな状態になっているのか全然気がついていなかったのです。子供といえども、パンダは力がかかなり強いので、油断は禁物です。

7. パンダに触る

話しは変わりますが、このツアーで、パンダに触らせてもらえる機会がありました。パンダの毛ってふわふわだと思っていたのですが、実は堅くてごわごわなんです！また、今まで知らなかったのですが、パンダはもともと肉食だったらしく、胃腸は肉食獣のもののままだそうです。その関係で主食の竹や笹の葉から栄養分を吸収しづららしく、栄養補給のため一日中食べ続けなければいけないということらしいです。食べてばかりで怠けもののイメージを勝手に抱いていたのですが、生きていくために仕方ないことだったようです。パンダのことを好きな割りにパンダのことを何も知らなかったなあと思い知らされました。

8. 終わりに

他にも色々事件があって、書きたいことはたくさんあるのですが、残念ながら、紙面の都合上、ご紹介させて頂くのはこれくらいにさせて頂きたいと思います。

今思い返しても、今回のツアーは本当に貴重な体験ができたと思います。私たちが訪れたのは四川の大地震の前だったので、その後どうなったのか気になりますし、一度こういう体験をしてしまうと、動物園で寝ているパンダを見るだけでは満足できなくなってしまいそうです。また機会があれば、パンダセンターを訪れてみたいと思います。

一期一会

柴田 泰子 (PA会)

1. きっかけ

最近、茶道を習い始めました。きっかけはいろいろあるのですが、もともとお茶全般が大好きだったことが最大の理由です。親がお茶好きだったこともあり、小さい頃から緑茶を飲んでいました。今は、ペットボトルのお茶がたくさん売られていますが、ペットボトルのお茶は、やはりお茶の葉から入れたお茶とは違うし、少し物足りないです。

加えて、和菓子を含め甘いものが大好きなので、お茶が飲めてお菓子も食べられるなんて茶道って最高だな、と前々から興味はありました。

ただ、茶道をやるのは特別な人だけという、なんとなく敷居が高いイメージがあり、踏み切れずにいましたが、最近茶道を習っていた友達からも勧められて、思いきって始めてみました。まだ初めて3ヶ月ほどですが、茶道のなれそめのお話をしたいと思います。

2. 教室選び

茶道には代表的なものとして表千家・裏千家があり、他にも細かい流派がたくさんあります。一般的には裏千家が主流のようなので、裏千家で教室探し始めました。

友達から茶道は、先生との相性が大事だから、というアドバイスをもらい、見学可能な教室を複数選んで話を聞きにしてみました。確かに、教室によってだいぶ雰囲気は異なり、先生も優しい人から厳しい人まで様々なようです。

私は、最終的に家の近くの通いやすいところを決めました。先生は、自宅で茶道教室を開いている方で、見学にいったときから、とてもよくしていただいて、すぐに申し込みました。

3. 道具選び

お稽古を始めるにあたり、道具を揃えることになりました。私の通う教室ではたいていのものは貸していただけるのですが、扇子や帛紗は各自用意します。今までお茶道具を買おうと思ったこともなかったので、どこで買えるのだろう、と思いましたが、これも友達に相談したところ、新宿には一色さんというお茶道具の専門店があることを教えてもらい、一緒にいろいろ見立ててもらいました。私が揃えたのは、扇子（実際使うことはない、挨拶のときに使用するくらい）・帛紗（茶道といえば帛紗（ふくさ）です。朱色が定番のよう。茶器を拭いたりするのに使います）・懐紙（お菓子を食べたりするときにお皿代わりに使う紙）・楊枝・帛紗挟です。

見ていると、いろいろ目移りしてしまっていて、なかなか選ぶことができませんでした。まだ、何もできない状態でも道具がそろって、なんとなく気分ががります。

茶道の道具は、偉い人（家元）が作ったものだったりすると、びっくりするような値段がつけられています。いつか欲しくなる日が来るのかは…謎です。

4. お稽古開始

まずは、いきなりお茶を点てることはできないので、お客様のお稽古（要はお菓子食べて飲むだけ）から始まります。久々の和室、久々の正座ということで、あっというまに足がしびれてしまいました。幸い、とても優しい先生なので、「修行じゃないのだから、全然崩して大丈夫だからね」と言っていたき、お言葉に甘えて、一人だけくずし座りでお稽古させていただきました。

私は、普段まめまめしく気遣いするタイプではないので、お稽古に行くたびに、新鮮なことだらけで

す。自分が日頃、いかに気が遣えていないかということを感じます。

茶道は、とにかく相手を思いやる心配りから、いろいろな作法がなりたっています。

例えば、お菓子を食するときも、必ずお隣の人に「お先に」の一声を忘れない、お茶碗は常に正面が相手に向くよう置いてあげるといったことなど、細かいところですが、たくさんの決まり事があります。

ちょっとどうしてもいいんじゃない、というようなことも、聞くと一つ一つの所作に全て意味があり、その意味を知ると素敵なことばかりで日本人でよかったな、と思えます。

5. お薄のお稽古

お客様のお稽古がなんとなくできるようになると次はお薄のお稽古に入ります。お薄を点てると一口にいても、これがまたたくさんの形式があるそうで、私はまだ1種類しか通しでできません。1種類といっても、帛紗のさばき方から、茶杓の取り扱い方など、覚えることが満載で、いつになったら全部を覚えられるのか自信がありません。

ただ、私のイメージの中の茶道は、茶せんでシャカシャカするっていうものだったので、それが出来たときは、茶道やっているな～という感じがしてうれしかったです。表面に細かい泡がたくさんできるのがいい、とのことですが、茶碗によって点てやすかったり、そうでなかったりあって、上手にたてられるようになるまでは、まだまだ時間がかかりそうです。

点てやすいのは深茶碗といって、浅く広がったものよりも縦長のお茶碗の方がたちやすいです。教室にはたくさんお茶碗があるのですが、その中から好きなものを選んでお手前することができます。通常は、季節感を重視して、それぞれの季節にあったものを選んでお出しするのですが、現在、深茶碗が、

たけのこの柄しかないため、今は夏で季節はずれなのですが、渋々たけのこ茶碗を使って練習しています。早く他の生徒さんのように好きなお茶碗でお稽古したいです。

6. 一期一会

有名な言葉ですが、これも茶道由来の言葉であることを、茶道を習って、初めて知りました。意味は、「一緒にいるこの時間は、二度とは巡っては来ないたった一度きりのもの。もし、また会うことがあっても、それは今この瞬間とは全く違う。だから、この時間を大切に、今出来る精一杯の誠意を尽くしましょう。」というものです。

素敵な言葉だなと思います。これが茶道の基本精神とされているものです。お稽古も毎回同じ先生、同じ生徒さんとお会いするわけですが、その1回1回は2度とない一度きりのものです。だから、その時々を常に大事にして感謝する気持ちを忘れないようにするにはいけないのだなと思います。

これは、茶道に限らず、日常生活でも意識すれば、相手に対してより思いやりをもって接することができて、結果として自分もいい気持ちになれると思います。

まだまだ茶道の道は長いですが、少しずつ精進したいものです。





ノヤギ捕獲の思い出

帯 包 浩 司 (P A会)

1. 世界自然遺産登録を目指して

「兄島に行ってきたくないか。」

もう、7、8年前になる。建設会社に勤めていた私は、部長の命令で突然に兄島（あにしま）に行くことになった。兄島は小笠原諸島に属する無人島で、台風の報道で有名な父島の隣に位置する島である。

部長の話によると、兄島を含む小笠原諸島を世界自然遺産に登録するためには、兄島にノヤギ（野生化したヤギ、もともとは食用）が存在してはいけならしい。したがって、ノヤギを捕獲することになるのだが、そのために捕獲用の柵が必要となる。その捕獲用の柵の設計・施工計画を立案する、というなんとも珍しい仕事を授かったのである。上司の命令に逆らえるわけもなく、発注元の自然保護団体のT氏と会社の先輩のおじさんN氏といっしょに3人で兄島に行くことになった。

2. フェリー

東京から兄島へ行くには、フェリーで父島へ行き、父島から小船をチャーターして渡る。飛行機では行けない。ところが、地図を見ればわかるとおり、小笠原諸島はかなり遠い。しかも、我々が乗ったフェリーは、硫黄島への遺骨収集旅行の日程と重なっていたため、異常に混んでいた。

当然、1等客室などは空いておらず、2等客室となったのだが、なんのことはない雑魚寝（ざこね）スペースである。かろうじて一人分のスペースが線で区切られてはいるが、寝ている自分の頭のすぐ横には他人の臭い足がある。仕方がないので乗船してすぐに船酔防止の錠剤を飲んで寝た。

どれくらい寝ただろうか、ふいに先輩のN氏に起こされた。眠そうにしている私に、笑顔で「甲板に出て空気を吸ったほうがいいよ！」とやけにしつこ

く誘ってくる。気遣って言ってくれているのだからと、仕方なく甲板に出た。甲板に出て外の景色を眺めると、確かに眺めはいい、しかし眠い。その時、N氏が最高の笑顔で「ちょっと写真をとってくれないか！」と言ってきた。そう・・・N氏は自分の写真をとらせるために私を起こしたのだった。くったくのない最高の笑顔のN氏の写真を撮ったのであった。

そして、波に揺られること23時間。翌日の昼ごろ、やっとのことで父島へ到着すると、タラップを降りながら島の人々による歓迎のスチールドラム演奏が目と耳に飛び込んでくる。ああ、離島っぽいなあ。

3. 先輩N氏流される

翌日は、いよいよ実際に兄島へ渡って現地調査する日である。しかし、あいにく波が荒く、チャーターした小船が尋常でなく揺れる。これでは、船着場もない兄島の海岸線までは近寄ることができない。内心「これなら今日は引き上げるしかないなあ。今日は有給休暇みたいなもんだ。」と喜んだのも束の間、自然保護団体のT氏から信じられない一言が。

「しょうがない、泳いで渡りますよ。足ヒレは持っていますから。」なんということだろう。波が荒いから近寄れないというのに、なんで泳いで渡るのが。

でも仕方がない、仕事である。ライフジャケットを装着し、生まれて初めて足ヒレをつけて力泳。必死の思いで岸までたどり着いた。すると、いつの間にか隣で泳いでいたN氏の姿が見えなくなっている。まさかと思って目を凝らして沖を見ると、波間で「お、おーい、オビカネく〜ん。」と笑顔で叫ぶN氏の姿が！完全に流されている。笑ってはいけない。助けにいくべきか！悩んでいるうちに同行し

たガイドに助けられてなんとか岸までたどり着いたN氏であった。

4. ノヤギ追い込み

さて、兄島のノヤギである。父島もそうだが、兄島にもかなりの頭数のノヤギが生息している。周囲数キロの島にざっと300頭。少し目を凝らせば見ることができる。このノヤギを捕獲するための柵の設計と施工計画の作成がこの冒険の目的である。今回も、せっかく兄島まで来たので、柵の設置予定地までノヤギを追い込む予行演習を実施した。我々3人とガイドを含む10人程度が、数メートルずつ間隔を空けて横一列に並び、島の西端から柵の予定地である東端の岬までノヤギを追い込むのである。こんな簡単な追い込みでも数十頭を囲い込むことができた。今回は予行演習ということで柵もないので、一頭だけ手で捕まえて調査用に発信機を装着。

近くで見ると、ノヤギの体長は1mにも満たない。「ノヤギ」というとイメージが悪いのだが、実際のノヤギはとても小さく、とてもかわいい。しかし、このノヤギも、いずれは私が設計する柵に追い込まれて薬殺される運命にある。そう思うと、自分のし

ていることに罪悪感を覚えた。このノヤギを殺してしまうことが環境保護なのだろうか。

5. 捕獲柵

一応、捕獲柵についても書いておく。捕獲柵は、地面に穴を掘って設置予定場所の四隅に柱（単管パイプ）を立て、柱と柱の間を網で繋ぐという単純な構造とした。施工については、島には道もないし木も生い茂っているため、資材を人力で担いで運搬するのは難しいだろうということで、ヘリコプターを使って資材・機材とも運搬することにした。

6. その後

その後、建設会社を退社したので詳しいことはわからないが、兄島のノヤギ捕獲は無事に完了したようである。ただし、私の設計した柵が役に立ったかどうかは不明。2010年9月現在、政府は世界遺産委員会事務局に小笠原諸島の世界自然遺産登録の推薦書を提出しているようである。小笠原諸島が世界自然遺産に登録されることを願っている。

以上



夢　　ド　　バ　　イ

筒　井　章　子（無名会）

1. チャンス到来

緑鮮やかなコースで開催されていた欧州ゴルフトーナメントのドバイ大会。そのテレビ中継を東京で見、いつかドバイでゴルフをすることを決めていたところ、思いがけずドバイを訪れる機会に恵まれた。建築家の親友が突然ドバイ赴任を命じられたのである。それも女性一人、年末の赴任命令からたったの1週間で飛び立った。

テレビの映像で見る限り、絢爛豪華な超高層ホテルと桁違いの生活が繰り広げられているイメージを抱いていたが、現地入りした友人からの報告は、“45度近くまで上がる気温”と“見渡す限りの砂漠”。友人の言葉を疑っていたわけではないが、どこか心底受け止めることが出来ていなかった。これを機会にと友人を頼って2泊3日でクリスマス前のドバイを訪れることにした。

2. あわや遭難

出発はパリのシャルル・ド・ゴール空港。思っていたより遠く、丁度パリと東京の中間くらい。深夜になってからしか帰宅できない友人の都合に合わせて深夜0時を過ぎて到着する便で現地入り。短期かつ、親友を訪ねるということもあって限りなく油断していたらしい。約束どおり、空港に到着しだい連絡しようと携帯電話を取り出したところ電源が入らない。荷物になるからと、普段持ち歩く日本の携帯を置いて慣れないフランスの携帯しか持たなかったばかりか、必須の暗証番号を控えた手帳も持ってこなかったのである。あろうことか友人の連絡先一切を記載したメモも忘れ、思いつくのは友人の勤務先の社名のみ。この時間に誰かが捕まるとも思えない。徐々に焦りだしてきた。アラブ語の知識も土地勘も全くない初めて訪れる国に、便利な日本語のガイド

の一つも持たずに着いてしまったのである。ドバイの空港が24時間空港なのか、公衆電話があるのかさえ分からぬまま、入国審査のゲートが近づく。あまりのお粗末ぶりに、空港で一夜を明かすしかないかな、と覚悟すると同時に、私のことを良く分かってきている友人がそのうち不審に思ってくれるだろうと神頼みならぬ友頼み、都合良く解釈して空港内をどんどん進んだ。

3. 男女別待ち合わせ？！

この最悪の事態でも不思議なことに異空間情報はちゃんと目に入るのである。まずは空港職員。みな背の高い細身の男性ばかり。制服姿の女性はいないのである。ドバイの王様のイメージそのまま、民族衣装の白い装束カンドゥーラを纏い、頭にも白い布のゴドラを着けている。特に言葉を発するわけでも、笑みを浮かべるわけでもない彼らが入国審査の列を仕切っていた。そして空港の造り。質素かつ小さい。煌びやかな空港を想像していたため、あまりのギャップになんとも言えない緊張感を感じつつ通過した。

事前にもらっていた友人の手書きの地図の“残像”を頼りに出口を探す。この時点で「安全で綺麗なところ」という誤ったイメージで到着したことに気づく。前を歩く到着客が出て行く自動ドアの向こうには、アジア系とおぼしき男性達の、まるで世界的スターを待ちかまえるような人ばかりとその声が見え隠れしていたから。空港職員の静かだがどこか圧迫感のある物腰と空気とは対照的だった。空港ロビーには人が少なく、どこかいつもとは違って、安易に空港の外に出てはいけない勘がした。案の定、搭乗客しか入れない空港とのこと。どおりで空港内は空いていたわけである。

まさか友人が迎えに来てくれているとはゆめ思わ

ず、自動ドアから片足と顔だけを出してみた。ムーッとする熱気に包まれかけた瞬間、私の名前を呼ぶ友人の呼びかけがはっきり聞こえた。ドアのすぐ横で立って待っていてくれたのである。なんとという奇跡！と歓喜すると同時に、それ以上に情け無い気持ちが募っていた。夢か現か判別できない状態のまま、また異常に気づかされる。イスラム教の教えに従い、到着客を待つ人々が鉄の柵で男女に分けられているのである。女性向けのスペースが1に対して男性向けはその5倍以上。なんとというアンバランスさ。中から見たあの人だかりはドバイマネーで沸いていた建築現場で働く、フィリピンやパキスタンからの出稼ぎ労働者だった。女性が少ないこともあって、物珍しいものを見るようにジロジロ見られつつ、友人が手配してくれた特別のタクシーに乗って無事に友人宅へ着いた。

4. 無人の街？

翌朝窓の外を見てまた驚く。外には歩く人の姿も走る車も見あたらない。舗装された道路や車の販売店や工場のようなものは点在していたが、人が住んでいるようには見えなかった。見覚えのある高層ホテル街も、スーパーもレストランも一切見えない。友人の厳しい生活の一端が見えてきた瞬間だった。

一人では移動できない私を連れて、友人がタクシーで街を案内してくれた。まずは遅い昼食を兼ねた腹ごしらえ。安心できる食事は高級なホテルで食べるしかないという助言にしたがって、雰囲気のいいバイキング料理をいただけるレストランへ向かった。少し勇み足だったようで30分ほどホテルの庭を散策。砂漠の国なのに緑で整備されているんだなあ、と思

いふと足下を見たたん、植え込みに蛇のような物体が……。なんと、草木への水やりのために、黒い細いホースが張り巡らされていたのである。元は砂漠なのだから考えれば当たり前のこと



だが、夢から現実へ引き戻される。

ホテルの従業員や客に現地の人は全く見あたらない。従業員はすべてフィリピンなどから来た人々で、流ちょうな英語でアジア風のもてなし。コックさんだけが欧州の人。ホテル内の食事は地中海料理が豊富に並び、味はとても美味しかった。夜となれば、バーに（？）若いカップルがいたこともあったが本当に少しだけだった。

食事のあと、タクシーで街を回ってもらう。主要な道路は幅が広く舗装されていたが、まったく人の気配がしない。ついぞ最後まで女性一人で歩いている姿を見ることができなかった。テレビではとても活気があるように映される金の市場（スーク）はほこりだらけ。パキスタン人と思われる人々の街で、男性だけ。日本人女性2人が歩くのはとても目立ってしまい、敢えなく5分で退散。どうやって友人が普段の生活をしているのか全く現実的に想像ができなかった。

5. 7つ星の駅舎

今回の訪問のハイライトは、友人が携わっていた中東初の公共鉄道ドバイメトロの建設を見ること。発注者のドバイの王様のコンセプトは7つ星の駅舎（何じゃそりゃ？）。1つ1つの駅に王様の指定したテーマがあり、それを体現する個別の内装デザインが施されることになっていて、これに友人が奮闘していた。日々移ろう王様のイメージと要望に振り回されながら、世界のあらゆる国から、見合う建材を調達して作成されているのだそうである。



6. 女性の娯楽

専用タクシーで半日観光をさせてもらってますます、女性が一人で住むところではないことしか分からず言葉を失っていた。普段からハードワークが続いている友人は、ホテルのエステが唯一の息抜きと

いうので付いて行くことに。確かに、有名オートクチュールメゾンの珍しい高級エステサロンがあって既に予約はいっぱい。やっと見つけたサロンでくつろいだあと、隣接する屋内スキー場を横にみて、ショッピングモールを徘徊。大きなモールになだたるメゾンが並んでいるがどこかほこりっぽい。やはり砂漠の国。陳列してある服のデザインはいささか古い感じ。他のショッピングモールもほぼ同じのようだし、毎週末そんな高級服を買えるわけでも、それを着ていく所も一般の人には無いはずで、いったい誰のためのものなのかと疑問符で頭がいっぱい。ただこのモールにだけは現地の女性達が見受けられた。

7. おとぎの国とビーチ

2泊目は海沿いのホテルへ泊まることにしていたため、モールに隣接する別的高级ホテルから移動することに。高級ホテルに付けているタクシーはドバイでは一般的に安全と言われているらしいが女性が使うにはやはり注意が必要だ。友人が厳しく吟味した特定のタクシー運転手を事前に予約して移動した。安全な公共の交通機関が無い国なのである。どんなふうに誰が住んでいるのか全く見えない不思議な体験である。

夕暮れどきの車中からは火の灯りは全く見られず、骨組みむき出しの建設中のビルと、その頂点に座るクレーンばかり。あとにしたホテルの天井は確かテレビで何度も見たことがあったけれど、カメラのブ

ラインダーに切り取られた部分に過ぎなかったのだと思い知る。

到着したホテルには構内に移動のためにゴンドラが用意され、ショッピングモールも隣接されていた。まるで、ディズニーランドの一部と汐留や六本木のショッピングアーケードが一緒になったような空間。外には7つ星ホテルが1棟燦然と光り輝いていた。チェックアウトの朝、プライベートビーチでのんびりしようとして行くと、また驚くことが。宿泊客以外はビーチに入るのに1万円を支払えと書いてある。ビーチでボーっとするだけで1万円??確かにゼイタクな時間だけれど、いやいや、お金のかかる国である。友人とのんびり海を眺めて話をしていたら、となりの7つ

星ホテルへ向かってヘリコプターが降り立って、去っていった。どんなセレブがお出ましかったのだろう。



8. 夢はつづく

ドバイの夢はどこまで続くのだろう。この隔離された特別な空間、もっとパワーアップしてもう少し安全になったら、今度はあの鉄道に乗って移動してみたいと思う。

平 衡 雑 感

石 原 進 介（無名会）

近年のベストセラーで「動的平衡（福岡伸一著）」というのがある。その本の中で福岡伸一教授は、「生命現象は絶え間ない分子の交換の上に成り立っている。つまり動的な分子の平衡状態の上に生物が存在しうる。」と述べている。我々を含めた生命は皆、動的な平衡状態にあるというわけだ。そもそも平衡とは、化学平衡、力学的平衡や熱平衡などいろいろあるが、大雑把に言えばバランスのとれた状態である。

私は、平日に仕事をし、休日は基本的に休むというサイクルを繰り返している。したがって、精神的にも身体的にも良いバランスを保つため、休みのときぐらい仕事からなるべく離れて頭をリセットする必要があると思っている。そして、もちろん、家族や他人との関わりもそのようなバランスと無縁ではないはずである。

最近では、休日でもずっと朝6時半ぐらいには起床している。といっても、約1歳の娘に起こされるのである。娘は、当然のことながら、まだ休日には平日よりも遅くまで寝ていたいという大人の希望を知らない。一方、妻は、平日には私があまり育児の手助けをできていないので、ここぞとばかりに私に頼ろうとする。それ故、休日の朝に離乳食をあげることなどは最近の私の休日の朝の日課となっている。そして、こういったことで、我が家では、家庭という系（システム）の平衡状態が保たれるわけである。私が離乳食をあげる作業を、敢えてクリーム風に表現すると、例えば、こんな感じとなる。

「【請求項1】

子ども用座椅子をベンチの上にセットする工程と、前記子ども用座椅子の座部に子どもを座らせ、前記子どもの腰部を前記子ども用座椅子に締め具で固定する工程と、前記子ども用座椅子のテーブル部をセ

ットする工程と、前記座らせた子どもの口へと離乳食をスプーンで一掬いずつ運ぶ工程と、を含むことを特徴とする離乳食を食べさせる方法。」

と、ここまで考えて、産業上利用できる発明に該当せずに29条柱書で拒絶されることは勿論だなあなどと考えてみたりするのである。

このところ、すっかりお腹が出てしまって、もはやメタボサーファーになってしまったが、それでも時間があるときはサーフィンに行きたくなる。昔、アメリカでフィリピン系アメリカ人の友達とサーフィンに行ったときに、「おまえはサーフィンを通して禅の精神を学んでいるから、(精神的な) バランスがとれているんだ。」と言われて、なんだそりゃと思って思わず笑ってしまったことがあった。サーフィンを通して禅の精神が学べるかどうかは知らないが、サーフィンはまさにバランスのスポーツなので、身体的なバランス感覚が身につくことは間違いない。

サーフィンは、波をつかまえたら、波の上から陸に向かってまっすぐに滑り降りるようなことはしない。波に対して、右か左かに滑るのである。ちょうど、スノーボードで左右にカーブを描いて滑るのと似て



いる（スキー場にはたまに意図せずに直滑降で滑ってしまっている人もいますが危険である）。

写真の中央付近でサーフボードに立っているのが筆者である。これにより、私自身という系の平衡状態が保たれるわけである。

サーフィンするところを、これまた敢えてクレーム風に書くと、例えば、こんな感じとなる。

「【請求項1】

海面に浮かべたサーフボードの上に乗り手が腹ばいになり、前記乗り手がパドリングをしてブレイクポイントに向かう工程と、前記ブレイクポイントで波待ちをする工程と、うねりの状態の波に対し、前記波の位相にあわせてパドリングを行い、前記サーフボードが前記波の表面波のエネルギーを受けるようにする工程と、前記表面波のエネルギーを受けたサーフボードの上に立つ工程と、前記波が崩れてくる方と反対側の方に体重移動によってサーフボードを向ける工程と、を含むサーフィンの方法。」

と、ここまで考えて、やはりこれも産業上利用できる発明に該当せずに29条柱書で拒絶されるなあ、などと考えてみたりするのである。

休日、時間がとれるときは、なるべく私が夕食を作るようにしている。私が台所に立つと、まずビール



を飲むことから始める。私にとって、これは大事な儀式である。今日は写真のように泡もき

れいに出来た。今夜の献立は、メインがハンバーグで、ガロニ（つけあわせ）に蒸しポテトと冷やしトマトである。今日のハンバーグは、ハンバーグといっても、通常のデミグラスソースをかけるものとは違ってマスタードソースをかけるもので、学生時代



にアルバイトでレストランのコックをしていた頃に覚えたレシピである。こういったことで、

我が家では、夫婦という系の平衡状態が保たれるのである。私の今回作ったハンバーグの作り方をクレーム風に書くと、例えば、こんな感じとなる。

「【請求項1】

玉葱半分をみじん切りとしてバターで炒め、冷ましておく工程と、牛豚のあい挽き肉300g、前記玉葱のみじん切り、ナツメグ少々、パン粉1カップ、卵一個、をボール内で混ぜ合わせ、成形することにより生ハンバーグを作る工程と、前記生ハンバーグをフライパンで焼くことによりハンバーグ体を作製する工程と、生クリーム80cc、バター、粒マスタード少々、及び塩こしょう少々とを小鍋に入れ火にかけてかき混ぜることによりマスタードソースを作製する工程と、焼き上がったハンバーグ体に前記マスタードソースをかける工程と、を含むことを特徴とするマスタードソースがけハンバーグの製造方法。」

と、ここまで考えて、実施例をそのまま書いたようなクレームで限定しすぎだなあ、などと考えてみたりするのである。

このようにして、私のとある休日が過ぎ、とりあえず、私と私の周りの系の平衡状態は保たれているのだと思う。

中国グルメ道

村 雨 圭 介（無名会）

ここ数年、驚異的なスピードで発展を遂げ、世界有数の経済大国となった隣国・中華人民共和国。以前は国営企業が大半を占め、世界経済とは無縁であった中国企業も、今やグローバル化を標榜して世界各国のマーケットへの進出や企業買収を進めており、我々弁理士の仕事においてもそのプレゼンスが日々高まっていることを実感せずにはられません。

私は、弁理士となる前、某総合商社で主に金属資源関連の投資や貿易に携わっておりました。そして、在東京で中国担当を4年近く務めた後、中国・北京に2年ほど駐在しておりました。中国には、北はハルビンのある黒竜江省から南は中国のハワイ（？）こと海南島のある海南省まで22の省（台湾は除く）があります。22の省以外に、北京・天津・上海・重慶の4直轄市、チベット・新疆ウイグル等の5自治区、香港・マカオの2特別行政区があり、全部で33の行政区分があります。仕事柄出張の多かった私は、このうち青海省と湖南省、内蒙古自治区以外全ての地域に足を踏み入れたことがあり、このような経験を持つ弁理士はそうは多くないのではないかと思います。

先日の尖閣問題でも浮き彫りになったように、中国がなかなかつきあいにくい相手であることは事実ですが、これからの時代、我々が全くの無関心でいられるような相手でもありません。そこで、とっつき易いお気軽ネタとして、私が印象的だと感じた中国の食べ物について書き連ねてみることにします。

・豆漿と油条

中国では朝ご飯を外で食べる習慣があります。最近はこちらで食べる人も増えていますが、今でも街中

では、お粥、饅頭、クレープのような焼餅など色々な屋台風の店が早朝から店を開けている光景を見ることができます。テイクアウトした肉ニラ饅頭をビニール袋に入れてオフィスに登場し、朝から猛烈な匂いをぷんぷんさせて頬張る若い女性スタッフをオフィスで初めて見たときは、本当に痺れました。

そんな中、一押しの朝ご飯は、大定番の熱い豆乳「豆漿」と揚げパン「油条」の組み合わせです。私は何も加えない豆乳が好きでしたが、野菜などが放り込まれた塩味のものや甘いものなどもあります。北京の冬の朝はかなり冷え込み、外を5分歩くと足先がキンキン痛み出すほどでしたが、アツアツの豆乳に油条を浸しながら食べると何とも言えない幸せを感じます。

・蟹粉豆腐

日本で高級食材として知られる上海蟹（大閘蟹）は、中国本土でも高級品です。特に江蘇省の蘇州にある陽澄湖産のものは人気があり、大変高価なものゆえ偽物まで出回る始末です。

上海蟹のシーズンになると、上海から蘇州に高速道路で向かい、蘇州の出口で降りてから市街へ向かう道路脇には、なにやら怪しいおじさんおばさんが点々と座り込んでいます。そして、みんな傍らに黒いビニール袋を携えているのを見ることができます。そうです、その中には蟹がごそごそと入っていて、車で通る人に売っているのです。こそこそとやっているところをみると、あれって密売なんではようか？

で、上海蟹はただ蒸しただけで食べても濃厚なカニミソが美味しいのですが、これより私が好きなのは、蟹の身とミソをふんだんに使った「蟹粉豆腐」という豆腐の煮込み料理です。一年中食べられます

が、やはりシーズンに食べると美味しさ倍増です。好みもあろうかと思いますが、上海に数店舗を構える「致真酒店」のヤツがオススメです。

・酸湯魚

日本では魚といえば海水魚ですが、中国では淡水魚を使った料理が非常にポピュラーです。そんな淡水魚を使った料理を一つ紹介します。

四川省の南隣りに位置する貴州省。あまり日本人には馴染みのない省ですが、中国の国酒といわれる茅台酒のふるさとです。この省には苗族という少数民族が住んでおり、その苗族料理の代表選手が酸味の強いトマトスープベースの鍋料理「酸湯魚」です。

名前の通り酸味が非常に強く、辛みもあります。具は魚と白菜などの野菜で、ナマズや雷魚のようなかなりグロテスクな魚をそのままぶつ切りにしたものが放り込まれており、食べる前はちょっと引いてしましますが、日本人の考える中国料理とは全く異なる味わいで、後を引くこと請け合いです。店員が生きた魚を水槽から取り出し、そのまま床に叩きつけて失神？させるのにも引くこと請け合いです。が・・・。

・麺あれこれ

日本のラーメンという言葉、これはもともと中国語で「手で引っ張り伸ばした麺」を意味する「拉面」から来ていると言われています（麺は中国語では面です）。日本のこしのある麺を食べ慣れた私たちが中国でラーメン風の麺料理を食べると、ん？イマイチ？と覚えることが多いのですが、中国ならではの麺料理にはやはり美味しいものが多いです。

例えば、新疆ウイグル料理の「拌面」。こしのある太めの麺に、トマト、セロリ、羊肉等を炒めたものが載せられた汁なし麺で、まさにイスラム文化圏の味です。

北京の伝統料理の一つ、「炸醬面」。日本のジャージャー麺の原型ですが、肉味噌はかなり日本よりもしょっぱく、紅心大根や大豆がトッピングされているのが特徴で、麺も茹でたて熱々か、茹でた後に流水で締めたものか選ぶことができます。

本場四川の担担面も日本のタンタン麺とはずいぶん違い、ほとんどの店では最後の締めにお茶碗程度の小さいお椀にほとんど汁のない状態で盛られて出てきます。

陝西省・西安に行く機会がある方には、ぜひ「一分里面館」というお店で牛肉面を食べてもらいたいです。かなり歯応えのある麺に、カレーのようなスパイスの効いた牛肉やじゃがいもなどが炒められた具がかけられているのですが、これはハマります。お店はかなり汚く、知らなきゃ入れない店構えですが、中国で食べた麺料理では文句なしの一番で、出張の度に訪問していました。イスラム街の北院門街にありますので是非。

余談ですが、いま中国各地の都市では交通渋滞が深刻です。私が初めて中国を訪れたのは2001年で、この頃はまだ北京や上海もさほど渋滞していませんでしたが、それでも既に道路を走る中心は自動車でした。その後、西安に初めて行ったとき、かつては中国の代名詞であった、道いっぱい広がって走る自転車の大群！という光景を目の当たりにし、「これぞ思い描いていた中国だぁ〜！」と興奮した思い出があります。そんな西安も、いまでは道路の主役が自動車となり、地下鉄が開通していないためにもの凄い渋滞に悩まされているようです。

・北京烤鴨

北京に来る出張者やお客さんのリクエストは「北京ダック食べたい。」「万里の長城行きたい。」「天安門見たい。」の三点セットです。嗚呼、これも北京駐在員の宿命。私が2年間の駐在期間中に食べたダックちゃんは100匹を下らないのではないのでしょうか。

北京ダックならば「北京大董烤鴨店」という店がおすすめです。高級店ですが、それでも北京ダックは丸一匹で2,000円しませんが。また、ここの隠れたスペシャリティはサフランを使った料理で、栗と白菜のサフランソース煮やサフラン風味のふかひれスープが絶品です。

・羊ざんまい

日本では苦手な人も多い羊肉ですが、中国では非

常に一般的な食材です。かくいう私は無類の羊好きで、日本でもメニューに羊とあればだいたい頼んでしまいます。

北京名物の一つに「東来順」という店の羊のしゃぶしゃぶがあります。日本のしゃぶしゃぶ鍋と同じような鍋で、種類の異なる色々な羊の肉をシャブシャブし、かなり濃厚なごまだれにつけて食べます。私はこれが好物で、週に一度は食べたかったのですが、日本人駐在員達は「またあ？」「パス」「今度ね」などと言って全然付き合ってくれません。しかたないので、社用車の中国人ドライバーとサシで食べに行っていました・・・。

日本からの出張者達が驚くのが、甘粛省や内蒙古自治区あたりで食べられる羊肉の塩茹です。とにかく臭みがないので、苦手な人でも「羊ってこんなに美味しいのか。」と感じてもらえるのではないのでしょうか。

また、新疆ウイグル自治区は羊料理の聖地？です。あちこちに極上の鮮度の羊料理を食わせる屋台があります。羊肉にクミン、塩、トウガラシをまぶして串焼きにした「羊肉串」、羊の内臓ごった煮スープ「羊雑湯」などが格安で食べられます。羊好きにはパラダイスですね。

・回鍋肉

最後は四川です。四川省ってのはホントすごいところですよ。北京、上海、西安といったメジャーどころを一通り見られた方、次はぜひとも四川省に行ってみてください。

食べ物とは関係ないのですが、まず、素晴らしい世界遺産登録地が目白押しです。青緑の水が印象的な「九寨溝」や「黄龍」、道教の聖地「青城山」、川

べりに聳える巨大な「樂山大仏」、四川のお隣り重慶市にある仏教石窟「大足石刻」などなど。省都の成都を拠点にして一週間ほど滞在し、バスや飛行機で回ると楽しめます。あと、チベットへも成都から飛行機が飛んでいます。

成都といえば、通称パンダ基地こと「成都大熊貓繁育研究基地」も見逃せません。震災後どのような状況なのか知らないのですが、北京動物園でみた淋しげな表情のパンダと違い、ここで見たパンダ達は何とも生き生きとしていました。ここでは子パンダを抱かせてもらうこともできます。ただし、北京ダック7匹分くらいの追加料金を取られますので、その点ご了承ください。

肝心のグルメ情報ですが、四川料理は日本で食べるものとかなり違います。最近では成都の陳麻婆豆腐が東京に進出したり、池袋あたりのディープな中国料理店では本格的な四川料理も食べることが出来ますが、本場ものはやはり美味しいです。四川省のみならず、中国どの街で食べても四川料理屋は外すことが少ない気がします。

日本と全然違う料理の一つに「回鍋肉」があります。日本では「豚肉とキャベツの味噌炒め」のイメージですが、本場ものは塊状の豚肉を塩茹でし、これをスライスしてカリカリになるまで葉ニンニクやネギと一緒に炒めたもの。これが白いご飯のお伴として最強なのです。私、成都滞在中に3日連続で回鍋肉＋ライスでおひとり様したことがあります。

いかがでしたでしょうか。これをお読みになった方が、ちょっと中国行ってみようかと思うきっかけになれば幸いです。



フルビット

亀崎 伸 宏（無名会）

1. フルビットとは

フルビットとは、運転免許証において種類の欄が全て埋められている状態のことをいいます。その語源は、1994年までの運転免許証の表記の方法にあります。当時の運転免許証は、種類の欄がビット（2進数）で表記されており、取得した種類には「1」が、取得していない種類には「0」が、それぞれ埋められていました。全ての種類を取得していれば、全ての欄が「1」で埋められていますので、その状態を指してフルビットと呼ぶことになったといわれています。

当たり前のことかもしれませんが、運転免許証がフルビットであれば、救急車や消防車などの一部の特殊用途自動車を除き、全ての車両を運転することができます。しかし、運転免許証をフルビットにすることは、困難を極めます。労力を必要とするだけでなく、そもそも、上位免許を一旦取得してしまうと下位免許を取得することが不可能になるというルールがあるからです。例えば、普通自動車免許を取得した場合、その後に原動機付自転車免許や小型特殊自動車免許を取得することはできません。

上位免許を取得していれば下位免許の車両を運転できることからしますと、当然のルールかもしれませんが、そうはいいまして、このようなルールがあることで、原動機付自転車免許や小型特殊自動車免許を取得しなかったマニアは、運転免許証をフルビットにすることを断念しなければなりません。

そこで、フルビットを断念したマニアが次に目指すのは、運転免許証を、全ての車両を運転できる状態にすることです。3つの旅客用の免許と、大型バイクの免許を取得することで実現できます。具体的には、大型自動車二種免許、大型特殊自動車二種免許、けん引自動車二種免許、および大型自動二輪車免許を取得して、これらの欄を埋めることになりま

す。このような状態の運転免許証は、語源からしますとフルビットではありませんが、広義に解釈した場合には、フルビットであるといわれています。

なお、運転免許の種類ですが、2007年に中型自動車が增设されたことで、現在は14種類があります。運転免許証を本来の意味のフルビットにするには、14種類の免許を取得しなければならないということです。

種 類	大型 原付	中型 けん引	普通 大	大特 中	大自 二	普自 二	小特 けん引
種 類	大型 けん引	中型 けん引	大特 大	大自 二	普自 二	大特 二	けん引 二

▲狭義のフルビット

▲広義のフルビット

2. 運転免許の取得方法

原則、試験場（府中、二俣川、幕張、鴻巣など）において、実技試験とマークシートの学科試験の双方に合格することが条件になります。また、応急救護処置講習、視力検査といった適正検査、手数料納付なども必須になります。

しかし、多くの方は、公安委員会が指定した自動車教習所を卒業されるので、実技試験などが免除された状態で試験場に向かいます。この場合、学科試験の合格後、所定の手続を済ますだけで免許を取得できます。

3. フルビットを目指したきっかけ

生まれて初めに覚えた言葉の一つは「ダンプ」で、幼い頃の夢は電車やバスの運転手でした。そのまま成長し、大学では、当然のように機械工学を学んでいました。自動車技術会の学生会員となり、いくつかのイベントにも参加しました。その一つに、大型自動車の試乗会がありました。三菱自動車の試験コースをお借りしての試乗会で、非常に貴重な体験でした。普通自動車免許を取得してから数か月後の参

加で、普段は絶対に運転できないトラックやトレーラやバスを自分で運転したことに、とても興奮したと記憶しています。

その試乗会から3年が経過した2002年に、道路交通法の一部が改正され、二種免許の取得が容易になりました。その法改正があるまでは、二種免許はタクシー会社やバス会社の人たちが取得するものだと思っていました。しかし、取得が容易になったことで、「私にも取得できる！」と火が付きました。当時は大学院に通っていましたが、学生のうちに、思い出になる何か大きなことをやっておきたいという気持ちがありましたので、「やるからにはフルビット！」と決めました。私の場合は、すでに普通自動車免許を取得していましたので、歯抜けのフルビットを目指すことになるのですが・・・。

4. フルビットへの道のり

フルビットに向けて動き出したのは、修士課程1年の夏が明けた頃で、大学院修了までにおよそ1年半の期間がありました。計画を立ててみますと、意外と時間に余裕があることが分かりました。そこで、「他も含めて可能な限りやってみよう！」と思い、移動式クレーン運転士免許やフォークリフト運転者免許の取得と共に、各種運転免許を取得していくことにしました。

以下、普通自動車免許を含めて、取得順に、各種免許の取得記について簡単に説明させていただきます。

・普通自動車（東埼玉自動車教習所）

指導員指名制度が導入されていたので、懇切丁寧な説明のE先生を多く指名させて頂きました。段階が進むにつれて、教えることがなくなってきたのか、E先生はウトウトと居眠りをするようになりました・・・。

・大型自動車（東武こしがや自動車教習所）

普通自動車と比較して車幅がありますが、車高が高い分、車幅感覚がつかみ易いと思いました。パワーがあるので通常はセカンド発進で十分です。リアオーバーハング（後輪の車軸から車両の後端までのお尻の部分）が長いので、左右折時には、いわゆるケツ振りに注意しなければなりません。このため、

普通自動車とは異なり、左折時には右のサイドミラーを、右折時には左のサイドミラーをそれぞれ見て、ケツ振りの状況を確認することになります。

大きな車両ですから、試験場では、距離感覚を検査する深視力検査があります。



・けん引自動車（足立自動車学校）

荷台となるトレーラ（被けん引車）は、運転席のあるトラクタ（けん引自動車）に、キングピン（第五輪）と呼ばれるたった1本のピンだけで連結されています。このようなトレーラを、いかに操るかが課題になります。このため、教習のほとんどが、バックの練習です。

普通自動車とは異なり、左にバックする場合には、バックしながらハンドルを一旦右に切ってトラクタとトレーラをくの字に曲げ、その後ハンドルを一気に左に戻します。同様に、右にバックする場合には、バックしながらハンドルを一旦左に切ってトラクタとトレーラをくの字に曲げ、その後ハンドルを一気に右に戻します。このように、普通自動車の場合とは逆の方向にハンドルを一旦切るのです、その動作を逆ハンと呼びます。この逆ハンですが、慣れてしまえば難しくはありませんが、最初は非常に戸惑いました。

・大型特殊自動車（松戸日立自動車学校）

ホイールローダと呼ばれる重機を走らせました。ホイールローダは、車両の前方に、土砂などをすくう大きなバケットを備えており、非常に重厚感があります。運転席に乗り込む際には、3段程度の梯子を登る必要があります。運転の開始時および終了時には、バケットを上げ下げする操作を行います。

アクセルとブレーキは、ゴーカートのような造りで、オートマ車の操作よりも簡単です。ハンドルにはドアノブのような取っ手が付いています。ハンドルは、左手で取っ手を握って片手で操作します。操作が簡単で、物足りなさを感じました。

・大型自動車二種（東急自動車学校）

大型路線バスでの教習でした。運転席が前輪よりも前方にあり、左右折時には、体が真横に振られるような感覚でした。バックミラーはなく、後方確認は、サイドミラーのみで行います。

構内教習では、二種免許に特有のV字クランクがありました。また、バス停を模したポールに、車体中央にある乗降扉を合わせて停車させる教習もありました。ポール合わせは、思った以上に難しく、他の教習生も悪戦苦闘していました。

路上教習では、商店街や住宅街、さらには、片側2、3車線ある環八通りなどを走らせました。大型バスの運転手は、周りの車両を見ながら道路の流れを作るという大きな役割を担っています。このため、わざと2車線を跨いで走らせて、後方からの車両を塞いだり、青信号に変わっても発進を遅らせて、対向車両を先に右折させたりします。場合によっては、3台くらいまとめて先に行かせます。バスは車体が大きく、後方車両の運転手にとっては前方を塞ぐ壁になっていますから、「ここまでやってしまうのか!」と思うようなことまでできてしまうようです。

・移動式クレーン運転士（江南クレーン教習所）

移動式クレーンは、動力をもって荷をつり上げ、これを水平に運搬することを目的とする機械装置で、原動機を内蔵していて、かつ、不特定の場所に移動させることができるもののことです。移動式クレーン運転士免許を取得することで、工事現場で見掛けるクレーン車などを操縦することができます。

クレーン車は、車種名では呼ばれず、メーカー名で、コベルコ、タダノ、加藤、コマツなどと呼ばれています。

教習は6日間の合宿で、朝から夕方まで学科と実技がみっちり行われました。そして、千葉県市原市にある関東安全衛生技術センターで学科試験を受け、労働安全衛生法による免許証が交付されました。

・普通自動二輪車（東武こしがや自動車教習所）

・大型自動二輪車（川口自動車学校）

元々はバイクに興味はなく、運転免許証をフルビットにするために通っただけでした。そうはいいまでも、実際に乗ってみますと楽しいもので、あっという間に教習は終わりました。

・フォークリフト運転者（東京クレーン学校）

技能講習は、学科と実技を合わせて、原則35時間行われます。大型特殊自動車免許を取得していただいたので、講習の一部が免除され、11時間通っただけで修了証が交付されました。



・けん引自動車二種（上江橋モータースクール）

・大型特殊自動車二種（上江橋モータースクール）

これらの二種免許については、公安委員会が指定した自動車教習所が存在しません。このため、練習場で練習してから、鴻巣の試験場で実技試験を受けました。試験場は、朝早く行きますと、試験コースに立ち入ることができます。私もそうですが、試験場で実技試験を受ける人は、試験コースを歩き、ポイントとなる箇所を確認していました。人によっては、写真やビデオを撮影しながら歩いていた。

5. おわりに

当初考えていたように、運転免許証をフルビットにしたことは、大きな思い出になっています。また、その過程において、全ての車両を運転できたことは、大きな経験でありました。各車両の特性や役割を知ったことで、常に安全運転を心掛けられるようになったと思っています。